

# 日本消防



- 令和5年 消防出初式
- 消防団の現況
- 第29回全国消防操法大会優勝チーム及び優秀選手紹介

1  
2023

□ 絵 令和5年 消防出初式

|   |                           |    |
|---|---------------------------|----|
| 「新日消会館も活かしてさまざまな対応前進」新春のごあいさつ                 | (公財)日本消防協会 会長 秋本 敏文       | 1  |
| 年頭の辞  | 総務大臣 松本 剛明                | 2  |
| 年頭の辞  | 消防庁長官 前田 一浩               | 3  |
| 年頭にあたり  | 全国消防長会会長 清水 洋文            | 4  |
| 第38回 防火ポスターコンクール 第22回「防火防災に関する」作文コンクールの表彰式を開催 | 生活協同組合 全日本消防人共済会          | 5  |
| 東西南北 (福島県)「消防力の向上を目指して」                       | 小野町消防団 団長 須藤 昭雄           | 6  |
| 東西南北 (大阪府)「誰もが安全で安心して暮らせる住みよい町を目指して」          | 和泉市消防団 団長 萩本 惠隆           | 8  |
| 東西南北 (高知県)「犠牲者ゼロを目指して」                        | 黒潮町消防団 団長 杉本 正守           | 10 |
| シンフォニー (佐賀県)「かもめが来た町」                         | 嬉野市消防団 女性部 部長 岡 典子        | 12 |
| ラジオ番組「おはよう!ニッポン全国消防団」秋本 敏文 日本消防協会会長 出演        | (公財)日本消防協会                | 14 |
| 消防団の現況  | (公財)日本消防協会                | 16 |
| 第29回全国消防操法大会 ポンプ車の部に優勝して                      | 鹿児島県中種子町消防団 中央分団 班長 松崎 利彦 | 18 |
| 第29回全国消防操法大会 小型ポンプの部に優勝して                     | 福岡県新宮町消防団第4分団 分団長 今村 一啓   | 20 |
| 第26回全国消防操法大会優秀選手紹介(ポンプ車の部)                    | (公財)日本消防協会                | 22 |
| 第26回全国消防操法大会優秀選手紹介(小型ポンプの部)                   | (公財)日本消防協会                | 24 |
| (公財)日本消防協会正副会長会議を開催                           | (公財)日本消防協会                | 26 |
| 入間市における消防団を中核とした企業の取り組みについて                   | 埼玉県入間市消防団 団長 西澤 宏志        | 28 |
| 宇都宮ヤクルト販売株式会社との消防団活動の充実強化に向けた支援に関する協定について     | 栃木県鹿沼市消防本部 鹿沼市消防団         | 30 |
| 地域の環境を踏まえ 分団組織再編へ!分団を2分団増設                    | 北海道 羊蹄山ろく消防組合俱知安消防団       | 32 |
| 機関員講習会を実施                                     | 宮城県 岩沼市消防団                | 33 |
| 地域の実態に即した災害現場で役立つ訓練                           | 秋田県 秋田市消防団                | 34 |
| 福島県南相馬市消防団PR活動(あさいち2022)                      | 福島県 南相馬市消防団               | 35 |
| 女性消防団の応急手当普及員講習指導                             | 愛媛県 東温市消防団                | 36 |
| 湯布院地域防災訓練を実施                                  | 大分県 由布市消防団(湯布院方面隊)        | 37 |
| 「消火栓」や「防火水そう」付近は駐車禁止!                         | 総務省消防庁 消防・救急課             | 38 |
| 雪害に対する備え                                      | 総務省消防庁 防災課                | 39 |
| 住宅の耐震化と家具の転倒防止について                            | 総務省消防庁 防災課                | 40 |
| うちの団のPR (愛知県) 瀬戸市消防団イメージキャラクター誕生              | 愛知県 瀬戸市消防団                | 41 |
| うちの団のPR (東京都) 現役消防団員は芸歴40年のベテラン漫才師!           | 東京都 荒川消防団                 | 42 |
| うちの団のPR (東京都)「江東区民まつり」深川消防少年団がパレードに参加!        | 東京都 深川消防少年団               | 43 |
| うちの名物団員                                       | 福島県、大阪府、佐賀県、宮崎県           | 44 |
| 消防団の広場(宮崎県)「コロナと台風と操法の狭間で頑張る消防団」              | 椎葉村消防団 第10部 部長 甲斐 雅規      | 46 |

編集後記

## 表紙写真説明

夏井千本桜

阿武隈山地中央部を流れる夏井川の両岸5kmにわたり、約千本のソメイヨシノが咲き競います。例年4月中旬に見頃を迎え、散策を楽しみながら春を満喫できる桜の名所として人気が高く、多くの観光客が訪れます。

写真提供: 福島県小野町





1月6日(金) 東京消防出初式(東京都)



# 令和5年 消防出初式



1月8日(日) 盛岡市消防出初式(岩手県)



1月8日(日) 藤沢市消防出初式(神奈川県)



1月8日(日) 新座市消防出初式(埼玉県)





1月8日(日) 三郷市消防出初式(埼玉県)



1月8日(日) つくばみらい市消防出初式(茨城県)



1月7日(土) 稲敷市消防出初式(茨城県)



1月8日(日) 小諸市消防出初式(長野県)



1月7日(土) 豊川市消防出初式(愛知県)



1月8日(日) 豊中市消防出初式(大阪府)



1月7日(土) 彦根市消防出初式(滋賀県)



1月8日(日) 岩国市消防出初式(山口県)

# 「新日消会館も活かして さまざまな対応前進」

新春のごあいさつ

(公財)日本消防協会 会長 秋本 敏文



改築中の新日本消防会館は令和6年5月末完成予定です。この新会館は、日本消防の総合的な中核拠点として、消防関係者はもとより、一般の方々にも消防防災活動を身近に感じて頂けるようにするなど、できる限りさまざまな活用をして日本消防の一層の発展に、さらには全国地方自治の発展等にも貢献できるようにしなければなりません。そのため、新会館の完成時の記念イベントとして何を実施するか、1階の情報センターには何を展示するか等、開館に向けてのさまざまな準備は、いろいろな方々のご意見も頂きながら、今年の早い時期に進めておかなければなりません。新会館の活用は、今年の準備如何にかかっています。

勿論、一方で、これまでとは様相を異にするさまざまな、そして大規模な災害の発生に対し、社会環境の変化にも応じながら、必要な対応を進めなければなりません。そのためには、極めて広範なさまざまな施策が必要ですが、人的な体制整備の面では、減少傾向が益々厳しくなっています消防団員の増員確保が大きな課題です。昨年、このことについては、日消内に消防団員確保対策推進本部を設け、消防団の重要性や具体的な活動等についてのPR強化等に関する意見、要望を明らかにしました。簡単に解決できる問題ではないでしょうが、近年つづけています地域の皆さん総参加総活躍の地域防災力強化等も関連があると思いながら、全国の消防団、市町村等の皆様とともに努力しなければならないでしょう。勿論、新しい技術を活用する装備の導入、災害関連の情報環境の改善等にも関心を払わなければなりません。

そのようななか、新型コロナウイルス感染症問題への対応が業務運営に影響を与えています。全国イベントの中止をつづけざるを得なかったのですが、昨年の全国消防操法大会は参加して頂く方々の人数は縮小し、前日の激励交流会、防災展、物産展はとりやめとしながら、操法実技を競う大会としては完璧に行うこととしました。やっぱり、やってよかったといえるのではないかと思います。女性消防団員の皆さんの全国大会も何とか開催しました。これからも、具体的な業務運営についてはいろいろ考えなければならないこともあり得るのですが、周辺環境や安全確保にはできる限り配慮しながら、しかし、消防にとってプラスになることの実現には努力しなければならないでしょう。

今年もいろいろな課題がありますが、全国の消防関係の皆様ともよくご相談しながら、前進するよう努力してまいります。よろしくお願いいたします。



# 年 頭 の 辞

総務大臣 松本 剛明



令和5年の新春を迎え、お慶びを申し上げます。

我が国の消防は、現在、国民の皆様から厚い信頼を得ています。

これは、消防に携わっておられる数多くの方々の消防に対する限りない情熱と、幾多の災害における献身的な活動の賜物です。

昨年も、日本国内で新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、大きな自然災害に見舞われました。

3月16日に発生した福島県沖を震源とする地震や、台風第14号、第15号などの自然災害により、多くの尊い人命が失われております。

お亡くなりになられた方々に哀悼の意を表しますとともに、被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

それぞれの災害現場で、消防職団員の皆様が、地域住民の方々のために昼夜を分かたずご対応下さり、人命救助や検索活動に当たって下さいました。

地域住民の安全・安心に対する消防職団員の皆様のご貢献に対し、深く敬意を表し、心から感謝申し上げます。

近年の自然災害の多様化・激甚化・頻発化を踏まえ、防災・減災、国土強靱化を進めているところですが、現場の最前線で国民の生命・財産を守る、消防の果たす役割は益々増大しております。

総務省消防庁においては、令和4年度第2次補正予算において、緊急消防援助隊の装備の充実強化、台風第14号、第15号を踏まえた救助体制の強化、消防団の充実強化、映像情報共有手段の充実などの施策を盛り込み、消防防災力の強化に全力で取り組んでおります。

引き続き、毎年発生している風水害や、将来発生が想定される「首都直下地震」、「南海トラフ地震」等の大規模災害に備え、緊急消防援助隊の体制の増強や、常備消防の充実強化、地方公共団体の災害対応能力の強化、地域防災力の中核となる消防団及び自主防災組織等の充実強化をはじめ、火災予防対策の推進、消防防災分野における女性や若者の活躍推進など、防災体制の強化に取り組めます。

特に、団員数が大きく減少している消防団については、広報の充実や団員の処遇改善を図るなど、団員確保に全力を挙げます。

また、消防防災分野におけるデジタル化を進め、映像情報共有手段の充実、救急業務におけるマイナンバーカードの活用、火災予防関係手続きの電子化による申請の簡素化などを図ることで、国民の皆様の利便性向上に寄与するデジタル化を推し進めてまいります。

さらに、Jアラートの的確な運用を行うための取組や、弾道ミサイルを想定した住民避難訓練の実施により、より一層国民保護体制の整備に万全を期してまいります。

加えて、本年5月のG7広島サミットや関係大臣会合の円滑な開催に向け、政府を挙げて取り組む中で、総務省としては、地元消防本部などとしっかり連携し、万全な消防・救急体制を構築してまいります。

皆様におかれましては、引き続き、消防防災・危機管理体制の充実強化や地域防災力の維持向上のため、一層のお力添えを賜いますよう、お願い申し上げます。共に頑張りましょう。

結びに、消防防災に携わっておられる皆様とお支え下さる御家族の皆様のご健康とお幸せをお祈り申し上げます。

# 年 頭 の 辞

消防庁長官 前田 一浩



令和5年の新春を迎えるに当たり、全国の消防関係者の皆様に謹んで年頭の御挨拶を申し上げます。皆様方には、平素から消防防災活動や消防関係業務などに御尽力いただいております、心から敬意を表し、深く感謝申し上げます。

また、新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、消防職団員の皆様には、災害対応の最前線で御尽力をいただき、重ねて感謝申し上げます。

昨年は、3月16日に発生した福島県沖を震源とする地震や台風第14号などによる自然災害に見舞われ、多くの方が犠牲になりました。

お亡くなりになられた方々の御冥福をお祈りするとともに、被災された方々に心からお見舞い申し上げます。

災害現場においては、被災地の消防本部や地元消防団はもとより、被災状況により県内消防応援隊も総力を挙げて最前線での活動等に当たっていただき、多くの人命を救助していただきました。改めて皆さんの御活躍・御尽力に敬意を表しますとともに、心から御礼申し上げます。

近年の甚大化・頻発化する土砂・風水害や南海トラフ巨大地震、首都直下地震などの発生が危惧される中、国民の生命、身体及び財産を守る消防の果たす役割は、益々増大しています。

そのため、消防庁では、国民の皆様が引き続き安心して暮らせるように、緊急消防援助隊や常備消防等の充実強化、消防団や自主防災組織等の充実強化をはじめ、火災予防対策の推進、消防防災分野における女性や若者の活躍推進など、消防防災力の強化に取り組みます。

とりわけ、団員減少が危機的な状況にある消防団については、引き続き、装備や資機材の充実強化に取り組むとともに、広報の充実や、報酬の充実等による団員の処遇改善、モデル事業の国費による支援など、消防団員の確保に全力を挙げてまいります。

また、昨年の10月から11月にかけては、北朝鮮から発射された弾道ミサイルにより、2度にわたり国民保護情報がJアラートで送信されたところであり、Jアラートに関する自治体向けの研修及び訓練や、弾道ミサイルを想定した住民避難訓練の実施により、より一層国民保護体制の整備に万全を期してまいります。

さらに、新たな科学技術が大きく発展していく中で、消防の分野にも適切に反映・活用していくことも忘れてはなりません。災害時における国・自治体間の映像共有手段の充実を図ることを目的とした消防庁映像共有システムの構築や、マイナンバーカードを活用した救急業務の迅速化・円滑化に向けたシステム構築の検討、火災予防・危険物保安・石油コンビナート等の保安の各分野における各種手続の電子申請化など、消防防災分野におけるDXの推進に取り組みます。

また、今後も新型コロナウイルス対策を的確に講じていく必要があるため、救急隊員の感染防止対策など、救急搬送体制の充実強化を図るとともに、救急相談サービスを提供する「#7119」などの取り組みを促進してまいります。

加えて、本年5月には、G7広島サミットが開催される所であり、サミット開催期間中における消防・救急体制を構築してまいります。

皆様方におかれましては、国民が安心して暮らせる安全な地域づくりとそれを支える我が国の消防防災・危機管理体制の更なる発展のため、より一層の御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、皆様の益々の御健勝と御発展を祈念いたしまして、年頭の挨拶とさせていただきます。

# 年 頭 に あ た り

全国消防長会会長 清水 洋文



令和5年の輝かしい新春を迎え、全国の消防関係者の皆様に謹んで新年のお慶びを申し上げます。

全国約78万人の消防団員の皆様方におかれましては、生業の傍ら、災害から地域住民の生命・身体を守るため、昼夜を分かたず献身的に消防団業務に取り組んでいただいていることに対し、心から感謝を申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により全国各地で救急搬送困難事案が激増するなど、消防行政においてもこれまでにない事態に見舞われました。

また、3月には福島県沖を震源とする最大震度6強の地震が発生し、さらに8月以降には日本列島に相次いで台風が上陸するなど、全国各地で尊い人命と貴重な財産が失われました。これらの過酷な災害現場において、長時間にわたり活動された消防団員の皆様に対しまして、改めて敬意を表する次第です。

令和3年中の全国の火災件数と火災による死者数は、火災件数が35,222件、火災による死者数が1,417人で、いずれも前年より増加している状況にあります。特に、住宅火災における死者のうち、65歳以上の高齢者の占める割合は7割を超えており、高齢化と都市構造の複雑化により、火災時における人命危険の増大が懸念されております。

また、南海トラフ地震や首都直下地震等の大規模災害の発生も危惧されているところであり、これらの被害を最小限に抑えるためには、地域防災の要である消防団員の活動が不可欠です。

このような中、全国消防長会といたしましては、地域住民が安心して暮らせる災害に強い安全な社会の実現のため、消防団員の皆様をはじめ消防防災関係機関の方々との連携を強化し、各種施策を全力で推進してまいりますので、引き続きご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、消防団員の皆様が、今後とも地域防災の担い手として、ますますご活躍されることを期待するとともに、本年が災害のない平穏で幸多き一年でありますことを祈念申し上げ、年頭のあいさついたします。



# 第38回 防火ポスターコンクール 第22回「防火防災に関する」作文コンクール の表彰式を開催

生活協同組合 全日本消防人共済会

生活協同組合全日本消防人共済会では、令和4年12月26日(月)に、東京都港区東新橋ヤクルト本社ビルにおいて、令和4年度第38回防火ポスターコンクール及び令和4年度第22回「防火防災に関する」作文コンクールの表彰式を行いました。

日本消防協会秋本敏文会長から両コンクールの最優秀賞受賞者に賞状と記念品、最優秀賞受賞者の在籍学校に記念品を贈呈しました。

受賞された皆様、おめでとうございます。



最優秀賞受賞者を囲んで記念撮影  
【秋本会長左】【写真前列中央】【秋本会長右】  
山口涼菜さん・秋本敏文会長・東谷柚月さん



第38回防火ポスターコンクール最優秀賞  
宮城県 蔵王町立宮中学校2年  
山口涼菜さん



第22回「防火防災に関する」作文コンクール最優秀賞  
岩手県 大槌町立吉里吉里中学校9年  
東谷柚月さん



## 「消防力の向上を 目指して」



小野町消防団 団長 須藤 昭雄

### 1 小野町の紹介

小野町は、阿武隈山系の中部、田村郡の南部に位置し、四方が標高700メートルを超える山々で囲まれており、町の中央を太平洋に注ぐ右支夏井川が流れ、これに沿って平坦地を形づくっています。市街地の標高は約400メートルで、まわりを阿武隈高原中部県立自然公園に囲まれ、北部の高柴山には3万株のヤマツツジが群生し、東部の矢大臣山にはアズマギクが群生するなど、優れた自然環境資源を誇っています。

### 2 小野町消防団の紹介

小野町消防団は、本部・訓練分団・庶務分団・第1分団から第7分団で構成され、347名(令和4年12月1日現在)の団員

が在籍しています。出初式や検閲式、防災訓練などの行事のほか、年間を通じた火防督励や分団ごとによる機材器具点検を実施し、予防消防に努めています。また、平成26年度には、小野町消防団マスコットキャラクター「小町TASUKE」を作成しました。「小町TASUKE」は、検閲式や出初式をはじめとする各種式典に参加し、消防団活動をPRしています。

### 3 小野町消防団の活動

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、消防団活動が制限される中、消防団の練度維持・向上は喫緊の課題となっています。コロナ禍の中、複雑・多様化する災害に対応するため、小野町消防団は独自のメニューを取り入れた「小野町消防団防災訓練」を実施しています。様々な災害状況に対応する現場指揮力の強化を目的とした「図上訓練」をはじめ、令和3年に導入した消防アシストアプリ「S.A.F.E.」の運用訓練、さらには、住宅火災における延焼メカニズムを研修する「ファイヤーコントロールボックス燃焼実験」など、毎年工夫を凝らした訓練を実施しています。参加した団員からは「様々な災害に対し、迅速な現場指揮が行えるよう、日頃からの準備を大切にしたい」との声があり、団員一人ひとりの防災意識の向上が図られています。



小野町消防団マスコットキャラクター  
「小町TASUKE」





消防アシストアプリS.A.F.E.説明会の様子

消防アシストアプリ『S.A.F.E.』（セーフ）とは

『S.A.F.E.』とは火災発生時に団員が持っているスマートフォンに一齐に通知され、火災種別や位置情報を素早く共有できるアプリです。地図上に火災発生場所や水利情報が表示され、一目で情報を把握でき、スピーディーな消火活動に活用できます。

また、令和4年8月に開催された、第44回福島県消防操法大会では、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、県内でも多くの消防団が出場を辞退する中、独自の感染防止対策を講じて練習を重ねて大会に出場し、敢闘賞を受賞しました。選手はもちろん、サポートする団員が一人丸となって大会に臨む姿は、大変有意義なものでありました。

## 4 おわりに

急速な人口減少に伴い、全国の消防団において団員が年々減少する中、小野町消防団でも、団員の担い手不足が問題になっています。団員確保のための勧誘や、PR活動の継続はもちろんですが、時代に即した消防団活動に形を変えていくことも重要だと考えています。

小野町消防団は、コロナ禍を契機とし、団員の負担軽減を図るため、検閲式や出初式といった各種式典の内容を大きく見直すとともに、団員の参集範囲を限定す



小野町消防団防災訓練（図上訓練の様子）



小野町消防団防災訓練（燃焼実験の様子）



福島県消防操法大会出場の様子

るなど、積極的な改革に取り組んでいます。前例にとらわれない改革を行うことで、団員が活動しやすい環境を整えることが、団員確保の一助となるだけでなく、将来にわたり、持続可能な消防団活動を展開できると感じています。

結びに、町民の安全・安心を守るため、関係機関との連携を密にし、団員一人ひとりが技術の向上に努め、地域防災の要として活躍する消防団を目指し、これからも日々精進して参ります。



# 「誰もが安全で 安心して暮らせる 住みよい町を目指して」

和泉市消防団 団長 萩本 惠隆



## 1 和泉市の紹介

和泉市は、大阪府南部の泉州地域に位置し、人口183,855人(令和4年10月末時点)で面積は84.98km<sup>2</sup>と大阪府内では5番目の大きさとなっています。東西は6.9km、南北は18.8kmと細長く、地形は南高北低で、南部には緑豊かな和泉山脈が連なり、中部・北部は丘陵が伸び、平地が広がっています。

本市は、土器、石器、木製品等貴重な文化財が数多く出土した弥生時代の集落跡として全国有数の規模を誇る池上曾根遺跡のある長い歴史をもつまちである一方、近年では、丘陵部を中心に大阪都心のベッドタウンとして宅地造成が活発に行われたことにより人口も増加、さらに大規模な工業団地の整備、大型商業施設

の進出も相俟って、活力のある街並みを実現し、都会でありながら、今もなお昔ながらの里山風景も残っているまちです。

## 2 和泉市消防団の紹介

和泉市消防団は、昭和31年に和泉市制施行とともに1団本部7分団598名で結成し、現在は1団本部9分団34班で構成され、消防団員数は条例定数370名に対し令和4年10月1日現在345名の団員で活動しています。また、消防団車両として、団指揮車1台、消防ポンプ自動車12台、小型動力ポンプ付積載車21台を有し、災害時の出動以外にも、火災予防啓発活動、夜間の管轄地域パトロールや休日の訓練・資機材点検などを行い、和泉市民の安心安全のため、日夜活動しています。



出初式一斉放水





消防本部との合同訓練

### 3 和泉市消防団の活動

和泉市消防団の主な活動は、建物・山林火災をはじめ、風水害対応、遭難者の捜索などの災害対応はもちろん、平時の活動は1月の出初式、文化財防火訓練から始まり、4月には昇任者、新入団員と対象とした辞令交付式、夏季には山林火災を想定し、消防団車両を10台使用し、急こう配を中継送水する山林中継訓練、秋季には地域ごとの総合防災訓練そして年末の特別警戒などを実施し、その他にも消防本部との合同訓練、定例訓練として毎月2回の資機材点検や自主訓練を実施しています。また消防・防災関連行事に関わらず、地域との関わりを大切にして、夏祭りなどの地域の行事へ参加するなど多岐にわたる活動を行っています。

また、年々、消防団員の確保が困難になっていることを鑑み、消防団への理解、

認知度向上のため、本市消防団では、平成26年より毎年、消防団広報誌を作成し、地域住民の方へ配布、さらに昨年度はコロナ禍により出初式が中止となったため、出初式と消防団PRを兼ねた動画を作成し配信するなど啓発活動を行っております。

### 4 おわりに

近年、全国各地で甚大な被害を及ぼす大規模な自然災害は、私たち住民の安全・安心を脅かしています。火災はもとより、これらの自然災害や、いつ発生するかわからない様々な災害に対し、地域防災の中核として活動する消防団には、地域住民からはますます大きな期待が寄せられています。しかしながら、一方で都市化の進展に伴う社会的な就業構造の変化や、地域コミュニティに対する住民意識の価値観の多様化等により、消防団員の後継者の確保がだんだんと難しくなっているのも事実であり、当市消防団においても例外ではなく、年々団員の平均年齢も上昇しております。

これらの課題の解決に向け、和泉市消防団全団員が努力するとともに、常備消防である和泉市消防本部の職員の皆さんと車の両輪のごとく力を合わせて「誰もが安全で安心して暮らせる住みよい町」を目指していきたいと思っております。



山林中継訓練



## 「犠牲者ゼロを目指して」



黒潮町消防団 団長 杉本 正守

### 1 黒潮町の紹介

黒潮町は、四国／高知県の西南地域にあり、幡多郡の中では東部に位置します。平成18年3月20日、高知県幡多郡「大方町」<sup>おおがたちょう</sup>「佐賀町」<sup>さがちょう</sup>が合併し、「人が元気、自然が元気、地域が元気」を合い言葉に、2町の速やかな一体化を促進し、新しいまちとして出発しました。温暖な気候を活かした施設園芸や土佐カツオ一本釣り漁業が盛んであり、近年は完全天日塩も代表的な特産物となっています。自然あふれる黒潮町には、「私たちの町には美術館がありません。美しい砂浜が美術館です。」をコンセプトに4kmの砂浜を「美術館」に見立て、「美しい松原」や沖に見える「くじら」、流れ着く「漂流物」など全てを作品とした砂浜美術館があります。Tシャツアート展やシーサイドはだしマラソン、冬には漂流物展などほぼ一年中何かを見たり、遊んだり、楽しむことができます。



黒潮町入野海岸(黒潮町公式HPより引用)

### 2 黒潮町消防団の紹介

黒潮町消防団は、団本部、3方面隊、14分団で構成されており、消防ポンプ車4台、小型動力ポンプ付き積載車15台を保有しています。総勢261名(うち女性消防団員4名)の地元の有志で構成されており、普段は漁業、農業など様々な仕事をされている方々が団員となっています。黒潮町内で災害が起こった場合は、仕事や家業を残したまま現場に駆けつけ、住民の生命、身体、財産を守るため消防・防災活動にあたっています。

### 3 黒潮町消防団の活動

黒潮町消防団の活動として、火災現場では黒潮消防署と連携して消火活動を行うだけでなく、住民の避難誘導、鎮火後の見回り警戒なども行っています。大雨、台風などの風水害の際には各分団管轄地域の見回り警戒、高齢者に対して早期避難の声掛けなどを行っています。また、行方不明者が発生した場合には、管轄する各消防団が黒潮消防署と連携し搜索活動にあたっています。災害活動以外にも地域住民との防災訓練、消防車両や水利などの点検、警戒広報活動、各種訓練など様々な活動を行っています。

年間行事は、出初式に始まり、夏季訓練、新入団員による基礎訓練、高知県総合防災訓練、年末の特別警戒など様々な行事



があります。

夏季訓練では、毎年違う訓練を実施しており、今年は火災性状についての学習、倒壊家屋を想定した訓練、エンジンカッターの取り扱い訓練、煙体験を実施しました。火災性状についての学習では、ファイヤーコントロールボックスを使用し火災の燃焼過程について学びました。今後の火災現場において今回の学習を活かし、火災による被害を最小限に抑えられるよう活動したいと思います。



ファイヤーコントロールボックスを使用した火災性状の学習

倒壊家屋を想定した訓練では、南海トラフ地震を想定し、重量物のリフトアップ、固定の手技を行いました。津波等により、黒潮消防署職員が現場に出場不可能な想定で、各消防団に配備されている簡易ジャッ

キを使用し実施しました。実際に簡易ジャッキを使用するのが初めての分団が多く、操作に慣れるまでには苦勞しましたが、実際に南海トラフ地震が起きた時にはこのような状況になることが大いに考えられます。より一層、消防団に配備されている資機材の取り扱いを行わなければならないと感じた良い経験となりました。

#### 4 終わりに

黒潮町消防団は、平素より防災思想の普及を地域コミュニティと連携し行っており、地域防災体制の向上を図っています。地域住民からの消防団の活動に対する信頼も厚く期待も高まっています。黒潮消防署と連携を図りながら、地域防災体制をさらに強化し、地域住民の方々と一体となった災害に負けないまちづくりをしていきたいと思います。

今後発生すると言われている南海トラフ地震では、大きな揺れに加え、黒潮町では最大約34mの津波が想定されています。黒潮消防署・黒潮町消防団・黒潮町民の繋がりを強みに、犠牲者ゼロを目指して日々努力し、消防団活動に励んでいきます。



重量物リフトアップ訓練



## シンフォニー（佐賀県）

### 「かもめが来た町」

嬉野市消防団 女性部  
部長 岡 典子

私達の町嬉野市は、佐賀県西部の長崎県境に位置し、つい先日距離が一番短い新幹線として話題になった西九州新幹線が開通し、今まで線路がなかった町に新幹線の駅ができました。お茶と温泉、焼物を観光の柱として、全国各地からたくさんのお客様が訪れて頂けるよう、私達消防団女性部も微力ながら努力していきたいと思います。

嬉野市消防団女性部は、現在団員数45名、平均年齢は35才です。とは言っても20才から65才まで幅広い年齢層になっています。以前は、主に行っている活動というほとんどの市町で実施されている月1回の巡回広報や毎年行われる春季・秋季訓練や各式典等への参加にとどまっていた。

本来女性消防団に求められているのは主に防火の啓発活動だと考えていますが、

この活動だけでは到底その役割を担えているとは思っていませんでした。また、団員の出席率もあまり良くなく、活動に出席するのはほとんど決まったメンバーで、団員同士の親睦を深めることもできていませんでした。

この状況をどうにか変えたいと思い、平成30年から福祉施設（老人ホームやデイサービス）を訪問し、防火についての寸劇や簡単な手遊び、季節の歌の合唱等、利用者の方々との交流を図り、防火啓発を実施しました。また、毎年市内の保育園やこども園の年長さんらが集まり、防火についてのDVD鑑賞や煙中体験、水消火器体験等で防火について学ぶ「幼年消防クラブ映写会」において、スクリーン版紙芝居や〇×クイズ、参加賞の配布等を行いました。百名以上集まった園児たちは興味津々で目を輝かせて見入っていました。



出初式



嬉しいことにその場にいた保育士の入団希望者も現れました。

福祉施設や幼年消防クラブの映写会の時に配らせていただいた参加賞の小物作りや劇で使う小道具全て団員の手作りで、ワイワイガヤガヤおしゃべりしながら何日も作業をしました。それが団員間の交流を深めることにつながりました。当日



女性部手作りの小物

イベントには参加できない団員も一翼を担ったという自覚にもつながったと思います。

私達団員の中には、応急手当普及員の資格を持っている者が18名おり、消防署との連携により各地区の応急手当講習会への参加等も積極的に行っています。

しかし、近年コロナ禍で様々な制限を受け、行事も中止となり、思うような活動ができていないのが現状です。今は部員間の交流もままならない中、今後どのような活動ができるかを再度話し合い、火災だけでなく自然災害による避難所運営等にもお役に立てたらと考えています。

今後も男性消防団と共に、地域に密着した活動を目指して消防団活動に取り組んでいきたいと思っています。



全国女性消防操法大会訓練



幼年消防クラブ映写会での活動

# ラジオ番組「おはよう！ニッポン全国消防団」

## 秋本 敏文 日本消防協会会長 出演

(放送日 令和4年12月31日(土)又は令和5年1月1日(日))

(公財)日本消防協会

ひろたアナ：「おはよう！ニッポン全国消防団」、  
今日は日本消防協会の秋本敏文会長  
をお迎えしています。  
明けましておめでとうございます。  
今年もよろしくお願いいたします。

秋本会長：おめでとうございます、こちらこそ  
よろしくお願いいたします。

ひろたアナ：今年も日本消防協会ではいろいろな  
お仕事があるのでしょうね。

秋本会長：そうですね、何しろ近年は災害の様  
相が変わって、いろいろな、大きな  
災害がありますし、火災によって高  
齢の方々が相変わらず多数お亡くな  
りになるというようなことですか  
ら、消防の皆さんのお仕事は益々大  
変になっていますので、いろいろな  
面で応援しなければなりません。

ひろたアナ：具体的にはどのようなことをおやり  
になるのですか。

秋本会長：どんなことがあっても、住民の皆さ  
んの生命財産をお守りする、地域の  
安全を確実にするためには、幅広い、  
総合的な対応が必要になりますが、  
一番基本となるのは人的な体制の配  
備です。  
具体的には、近年、消防団員の皆さ  
んの減少が著しくなっていて、  
団員の皆さんの増員確保が大きな課  
題です。

ひろたアナ：そんなに減っているのですか。

秋本会長：消防団の長い歴史のなかで、地域の  
防火防災体制の中心として、100万  
人、減少しても90万人クラスを維

持してきたのですが、今は80万人  
を切りそうな状況です。

これにどう対応するか、消防庁の方  
でも団員の処遇改善などやって頂  
いていますが、全国の消防団の皆さ  
んのご意見も、私たちの思いも、もっ  
と一般の皆さんに消防団のことを  
知っていただきたい、消防団員の皆  
さんの具体的な活動、日常生活との  
関係、そして、地域の安全への貢献  
などもっと良く知ってもらって、消  
防団に入ってみようかと思う人が  
もっと増えるように、いろいろな方  
法のPRをもっと充実してほしいと  
いうところです。

ひろたアナ：そうしますと、この「おはよう！ニッ  
ポン全国消防団」もお役に立ってま  
すね。

秋本会長：その通りです。今、私たちがやって  
います重要なPRとして、関係の方々  
にお話しています。

何しろ、有名タレントの方々による  
消防応援団の方と全国の消防団員の  
方々との間で、生々しい具体的な活  
動のお話をさせて頂いていて、しかも  
15年もつづけているのですからね。  
これからも大事にします。よろしく  
お願いします。

PRについては、そのほか、どのよ  
うな方々に、どのような内容のこ  
とを、どのような方法でお伝えするの  
がよいか、もっと総合的に検討しな  
ければならないかなとも思っていま  
す。

しかし、どんなことをするにも、こ  
のラジオ番組が大事であることに変  
わりはありません。

ひろたアナ：よろしくお願いします。そして、PRの他にもいろいろおやりにならなければならないのでしょうか。

秋本会長：そうなんです。消防団活動として何でもできる訳ではありませんが、本来に地域の皆さんの生命財産を守っていくために必要な活動というのは、以前よりも広がってきているように思います。

例えば、気象情報をキチンと受けとめてどのようなことがあり得るか、またその地域の自然社会的状況を考えてどのようなことがあり得るかを日頃から考える、そうしながら、火災対策、洪水、土砂災害などへの対応のため、必要な整備を整え、訓練をする。また、地域の皆さん総参加・総活躍の地域防災体制を強化しておくことが大事です。

そのためには、地域の自主防災組織、女性防火クラブは勿論、いろいろな企業や団体の方々とも日頃から一緒に話し合ったり、訓練をしたりして、地域の総合的な防災体制を強化するようにしていかなければなりませんね。

ひろたアナ：そのようにして、人材豊富な消防団づくりを進めることも大事でしょうし、そのほか、災害が発生しないような状況をつくるとか、いろいろなことがあるのでしょうか。

秋本会長：そうなんですよね。大雨があっても洪水にならないようにする、そのための、いわゆる防災基盤の整備、これを直接には消防が担当する訳ではありませんが、このようなことについても関心をもち、地元の知恵を活かしていくというようなことが大事になることもあるでしょう。また、いろいろな整備についても、新しい、幅広い技術を活用して、改善していく、そのための必要な資金を確保するというようなことも大事だと思います。

難しい面もあるでしょうが、団員の皆さんの安全確保に注意しながら、いろいろな対応・体制を作ることが必要です。

そのように考えていきますと、増員

確保する消防団員の皆さんには、いろいろなお力をもつ、いろいろなことができる多彩なメンバーがおられる方がよいということになるでしょうね。男性も女性も、いろいろな専門的な知識、技術、特性をおもちの方々がいることが、総合力を高めることになるでしょうね。

ひろたアナ：大変ですね、どのように進めるのですか。

秋本会長：勿論、容易なことではありませんが、今、改築を進めています新しい日本消防会館、これは令和6年5月末完成予定なのですが、この新会館には、多くの消防関係団体に入居して頂くなど、世界にも例がない消防の総合的な中核拠点になりますので、オール消防の皆さんのお力を頂きながら、新会館1階につくります日本消防防災情報センターを、消防関係者に対するさまざまな情報提供、一般の皆さんへのPR等、多様な活用をしていきたいと思っています。東京でも虎ノ門という便利な所ですので、全国の皆さんにも東京においでの際は立寄り頂きたいと思います。

ひろたアナ：今年もいろいろあるようですが、消防のため、国民の安全向上のため、今年もよろしくお願いします。

秋本会長：ありがとうございます、今年もよろしくお願いします。

ひろたアナ：それは、楽しみですね。消防のため、団員の安全向上のため、よろしくお願いします。

秋本会長：ありがとうございます、よろしくお願いします。

ひろたアナ：おはよう！ニッポン全国消防団 今日日本消防協会の秋本敏文会長にお話を伺いました。ありがとうございました。

※令和5年1月1日放送分を掲載しています。



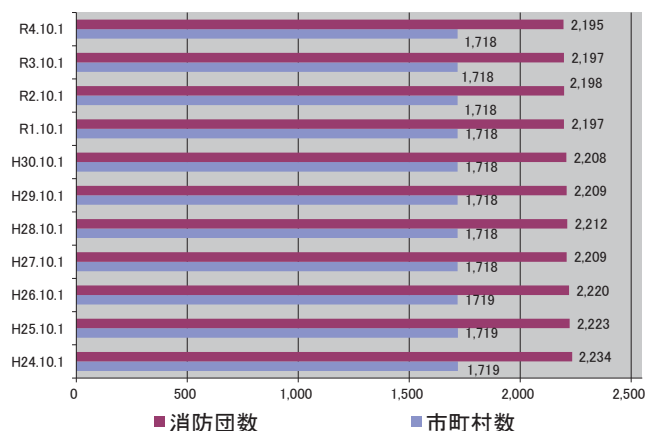
# 消防団の現況

(公財) 日本消防協会

## 1 消防団数の動向

平成10年代は、平成の合併に伴う消防団の統合などで減少が続いていましたが、平成20年代に入ると合併も一段落したことから、市町村及び消防団数の減少幅は年々縮小傾向となっています。令和3年は2,197団（前年比1団減少）、令和4年は2,195団（前年比2団減少）となっています。【表1】

【表1】市町村数及び消防団数の推移（日本消防協会調べ）

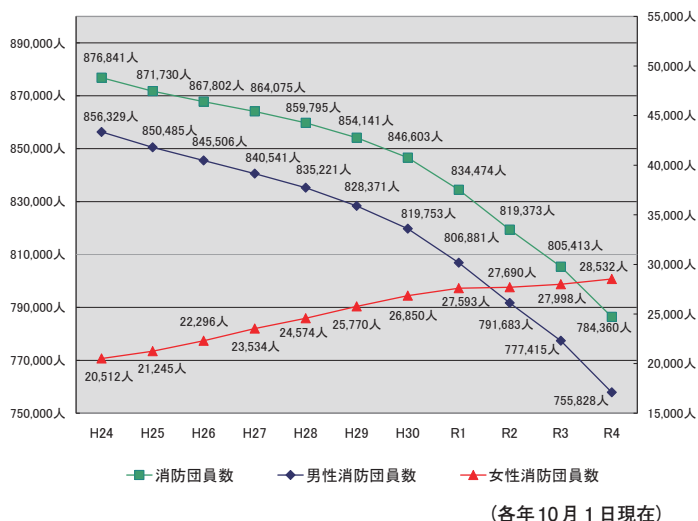


## 2 消防団員数の動向

消防団員数は、社会環境の変化（少子高齢化による若年層の減少、就業構造の変化、地域社会への帰属意識の希薄化等）から減少が続いています。

令和4年の消防団員数は、784,360人であり、前年に比べ21,053人減少しています。このうち、男性消防団員数は、755,828人で前年に比べ21,587人減少し、女性消防団員は、28,532人で前年に比べて534人増加しています。特に女性消防団員は、平成24年から10年間で8,020人増加しています。【表2・表3】

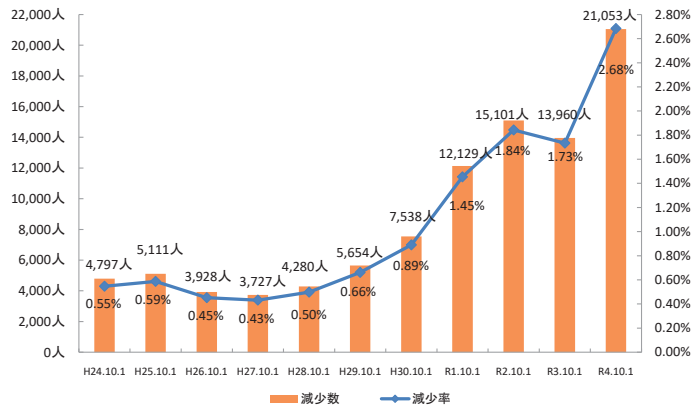
【表2】消防団員数の推移（日本消防協会調べ）



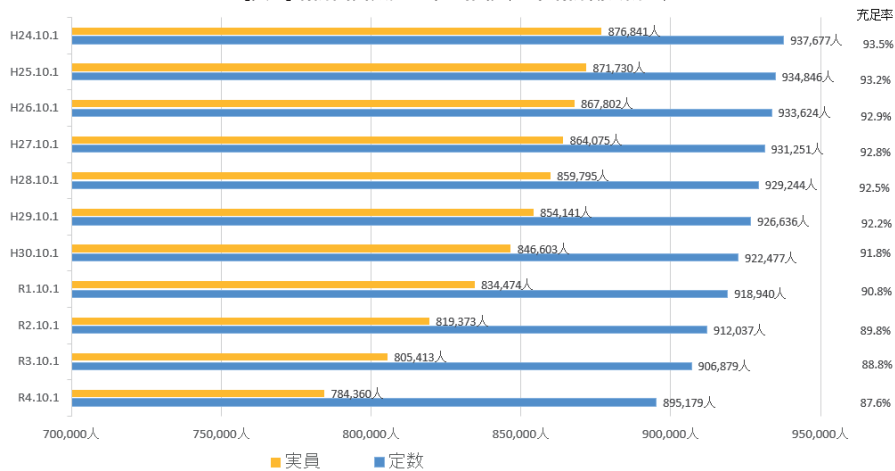
(各年10月1日現在)

このように毎年、団員数は全国的に減少傾向にあるなかで、様々な消防団員確保（消防団への加入促進、消防団の処遇改善、消防団の装備・教育訓練の充実等）に取り組んでおります。令和3年調査は3県で消防団員数が増加しましたが、令和4年調査では1県で増加しました。また、令和4年の定員に対する充足率は87.6%で令和3年の88.8%と比較して1.2ポイント低下しました。【表4】

【表3】消防団員数減少数及び減少率の推移(日本消防協会調べ)



【表4】消防団員数充足率の推移(日本消防協会調べ)



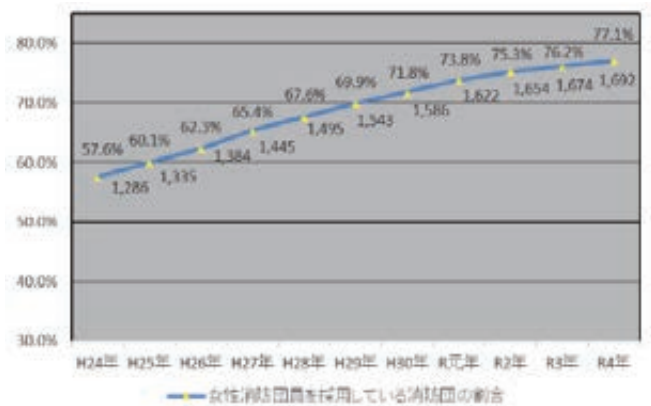
### 3 女性消防団員

女性消防団員を採用している消防団は年々増加しており、令和4年は1,692団(全消防団の77.1%)で、前年より18団増えています。【表5】

地域の安心・安全の確保に対する住民の関心の高まりなどを背景に女性消防団員の活動も多様化しており、災害時における後方支援活動、住宅用火災警報器の設置促進、火災予防の普及啓発、住民に対する防災教育・応急手当指導等、多岐にわたって活躍しています。

また、近年では、女性消防団員も各分団に所属し火災現場での消火活動など基本的に男女問わず同じ活動を行う消防団も増加しています。

【表5】女性消防団を採用している消防団数及び割合の推移(日本消防協会調べ)



(各年10月1日現在)

# 第29回全国消防操法大会 ポンプ車の部に優勝して

鹿児島県中種子町消防団 中央分団 班長 松崎 利彦



## 中種子町の紹介

中種子町は鹿児島県大隅半島南端である佐多岬から約40kmに位置する種子島の真ん中にある、人口約8,000人の町です。北は西之表市、南は南種子町に隣接し、東は太平洋、西は東シナ海に面しております。東西6kmから9km、南北22kmで最も高い所でも282mであり北部に山林地帯が多く、中央部から南部は比較的平坦な地形であります。役場がある野間を中心に7つの地区があり、どの地区も島らしいおおらかな風土に包まれ、住む人皆が温かい人柄であり、様々な文化を持っています。また、ご当地キャラクターの離島戦隊タネガシマンもあり、町内はもとより各地で活動する町のヒーローです。

## 消防団の紹介

明治44年、私設の野間消防組が創設され、昭和10年には公設消防組に改組されました。昭和14年、法改正により中種子町警防団が組織され野間公設消防組は野間分団に改称し、各地区に分団が新設されました。昭和23年、消防組織法の制定により自治体消防となり当時の団員数は60名、現在は40名であります。昭和35年には火災現場において団員1名が悪性ガス中毒によって亡くなる事故があり、それを教訓に自らの安全にも細心の注意を払うことで、現場での事故はそれ以来発生しておりません。我々は地域の安心や安全を守るべく操法訓練、その他の訓練を通じて現場で迅速な活動ができるよう心がけております。

## 操法大会に向けて

3月中旬、監督、指揮者を決めるための分団幹部会が開かれました。私が指揮者に選ばれ、これからの訓練内容や大会へ向けての調整等を任されることになりました。

4月上旬、昨年の操法メンバーの1番員、2番員と新たに3番員、4番員、補助員が加わりチームを結成しました。しかし、昨年のメンバーとはいっても訓練開始約1か月で新型コロナウイルス感染症の蔓延によって町大会が中止となりこのメンバーは解散したため、皆ほぼ操法の初心者であり、私も操法経験者とはいえポンプ車操法の指揮者は初めてで、例年通りの訓練を展開できるか心配でした。

## 訓練開始

我々の操法訓練は規律を重視したものであり、全国大会ポンプ車の部において3期連続出場で築き上げてきた操法技術や経験を基に、要員各番手に経験者をコーチとして配置し、共に日々試行錯誤しながら技術の向上を図りました。

全国大会実施要領によると今大会から実践を意識した操法、審査になるとされ、「集まれ」と「収納」での集合線に整列する動作が見直されたため、訓練では乗車後の操作始めから火点を倒すまでの一連の操作の精度とスピードを重視。週に約4日、1日に1時間から





2時間訓練してきました。はじめは全くの初心者だったチームですが必死に努力してきた結果、見事に地区大会で優勝し県大会でも優勝することができました。4期連続の全国大会出場には町の関係者も皆驚き、感激していたのを覚えています。それから約2か月間の訓練を経て全国大会へ出発しました。



## 全国大会

10月29日、千葉県消防学校にポンプ車の部21チーム、小型ポンプの部24チームが集まり開催されました。前日にはコース外ではありましたが、各チーム20分間の練習時間が設けられました。各都道府県代表チームが本番の調整程度で練習を終える中、我々の要員は皆緊張していたためか、最近の練習では見ないようなミスの連続でした。私は時間いっぱい練習し、修正するよう指示しました。このように前日にバタバタしていたチームは他になかったと思います。そして迎えた大会当日、晴天の会場には各都道府県代表、関係者含め約3,000人が集まり開催されました。

今年の地方大会では審査員、関係者しか会場におらず、我々はこれほど大勢の観客がいる会場で操法を行うのは初めてでした。大会は順調に進行し、いよいよ我々の出番、もちろん皆緊張している様子。進行係の「それでは鹿児島県代表は位置についてください」の指示と共に要員はもちろんです、応援してくれる仲間もさらに緊張が高まっていたそうです。



我々の出場順は最後の21番目。各都道府県代表が素晴らしい操法を披露する中、189.5点の千葉県市川市消防団がトップ。私が今まで経験している全国大会でも中々見られない高得点。県大会では182点だった我々が勝利するには、これまでの訓練での持てる力のすべてを出しても勝利できるか分かりませんでした。出場順最後ということもあり、コース内で操法準備を終え、待機している我々に会場中の視線が集まっているのを感じました。審査班長の「操法開始」の合図で競技が始まると、あとは我々が訓練してきたことを各自全力を出すだけ。指揮者は競技中も各要員に目を配り、操作の様子を確認する必要があります。その彼らの動作、表情はとても素晴らしく、競技が始まる前とはまるで別人のようでした。指揮者の「別れ」の号令後、要員との敬礼で我々の半年に亘る操法が終わりました。コース内からポンプ車の撤収が済むと抱き合いお互い称えあう要員たち、我々の操法に拍手が降り注ぐ会場には応援していた仲間も涙する瞬間でした。そして会場の大型モニターに中種子町192点が表示され、優勝決定に会場が大いに盛り上がった瞬間でした。ここまで頑張った要員、仲間へ感謝です。

## おわりに

ここに至るまで、支えて頂いたすべての関係者の皆さまに感謝するとともに、これからも地域の防災、消防活動もこれまで以上に尽力していきたいと思います。全国大会出場4回を含め計25回の操法経験は私の宝です。これからも操法を通じて得た絆や感動を仲間と繋いでいきたいです。

大会運営して下さった日本消防協会、千葉県市原市、千葉県消防関係者の皆様ありがとうございました。

# 第29回全国消防操法大会 小型ポンプの部に優勝して

福岡県新宮町消防団第4分団 分団長 今村 一啓



全国消防操法大会で優勝が決まった瞬間、会場にいた新宮町消防団全員で喜びを分かち合いましたが、個人的には、ここに到達するまで本当に長かった…と、感慨深いものがありました。

全国消防操法大会へ出場するためには、新宮町大会を優勝し、糟屋地区大会(古賀市と糟屋郡7町)で上位2チームに入り、福岡県大会で優勝しなければなりません。しかも、全国大会はオリンピックと同様、4年に一度しかチャンスが巡ってきません。さらに、糟屋地区大会は県内でも屈指の激戦区と言われており、上位2チームに入るのも難易度が高く、その証拠に福岡県大会では、今回を含め、3大会連続で糟屋地区から全国大会へ出場という素晴らしい結果を残しています。

第4分団は、平成18年度から8大会連続で地区大会に町代表として出場、県大会は3大会連続で出場し、今回悲願の全国大会出場を果たしました。結果だけ見ると、継続して結果を出していますが、決して楽な道のりではありませんでした。何故なら、それまでの第4分団は、新宮町消防団の中でも影が薄く、活動が十分にできていない状態が長年続いていたからです。私はご縁あって平成16年度に移籍してきた際、その状況を目の当たりにし落胆しました。しかし、当時の分団長が中心となって、日々の消防団活動にひとつひとつ取り組んでいくことで、少しずつ充実した活動ができるようになりました。操法も町大会を突破できるようになりましたが、地区大会の壁は想像以上に厚く、このままでは県大会出場は無理だということを悟りました。それは、結果を残してきた出場隊は、選手の操法技術もさることながら、伝統という経験に裏打ちされた質の高い運営ができていたからです。私たちは、勢い先行であったため、周りが見えていないところもあり、町代表として相応しい出場隊であるためにはどうすべきかを模索しました。そして、6回目の挑戦で町として28年ぶりの県大会出場を決め、7回目の挑戦で県大会3位に入賞することができました。

これまでの実践した成果が出てきて、最高のタイミングで全国大会に挑めるはずだった令和2年度ですが、今般の情勢により中止となってしまいました。分団員の大半が社会人であるため、一年で生活環境は変わります。全国大会を現実的に目指せるところまで来て、挑戦できずにこのまま終わるのかと諦めていましたが、前回大会の選手たちが最後の挑戦を





したいと立ち上がり、私に分団長として引っ張ってほしいとの相談がありました。私は、令和3年度で退団するつもりでしたが、選手たちの4年越しの強い意志を感じ、私も分団長として一緒に最後の挑戦をすることを決めました。

そして挑んだ今回の操法大会において、悲願の県大会初優勝、全国大会出場を果たすことができました。

全国大会では、競技順が1番目ということが既に分かっておりましたが、会場の千葉県消防学校の競技レーンで訓練ができないことや、他の出場隊の競技を参考にできないということから、どう取り組むべきかと緊張と不安がありました。しかし、福岡県消防学校の皆様からのご指導を受けた際に、時間と環境を上手く使うことで、その緊張と不安に打ち勝つことができれば、逆に有利になると教わり、リズムが崩れることを覚悟した上で自分たちの操法を解体し、限られた時間の中でしたが、それに賭けて本番の状況を想定した訓練を行い、心身共に再構築しました。

全国大会当日は、選手が最高のコンディションで競技にのぞめるよう、サポートする分団員の役割分担をプランニングした上で、新宮町消防団一致団結して大会に挑んだ結果、97点という高得点で優勝することができました。得点が電光掲示板に表示された瞬間の驚きと喜びは、一生忘れることはありません。

今回、操法大会が中止となった期間も気持ちを切らさず、見事全国大会への出場を果たし、その大舞台で立派な操法をやってみせてくれた爆発力のある個性豊かな選手諸君、それをサポートするバラエティに富んだ第4分団員諸君、長期間大変お疲れ様でした。素晴らしい仲間恵まれ、かけがえのない時間を過ごすことができました。そして何より、新宮町消防団幹部皆様の懐深いご対応、分団長会を中心とした団員皆様の積極的な協力体制、福岡県消防学校の皆様の的確なご指導、粕屋北部消防本部の皆様の熱心なご指導がなければ、この結果を得ることができませんでした。一丸となって取り組んでいただき、感謝の気持ちでいっぱいです。また、多くの方々から心温まる応援やご支援をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。

「日本一」という明るい話題を、福岡県に持ち帰ることができて、本当に良かったと思います。

これまで様々なことがありましたが、逃げずに、諦めずに、取り組んできたことの積み重ねが伝統を創り、人財を育て、人の輪が広がり、それが成果に繋がっていくものと確信しました。この経験をした人は、消防団活動のみならず、これからの人生において様々な場面で、きっと役立つことでしょう。

最後に、全国各地域で消防団活動に取り組まれている全ての消防団員の皆様に敬意を表し、この消防団活動が、安心安全のまちづくりの中核を担うものになりますことを祈念申し上げます。





## 第29回全国消防操法大会優秀選手紹介

(公財)日本消防協会

令和4年10月29日(土)、千葉県消防学校において、第29回全国消防操法大会が開催されました。全国消防操法大会は、2年毎に開催していますが、平成30年に開催した第26回大会後、令和2年の第27回及び令和3年の第28回大会は、新型コロナウイルス感染拡大のため中止となり、3大会振りの開催となりました。

今大会は都道府県の代表45消防団が、ポンプ車の部、小型ポンプの部の2部門に分かれて、速さ、正確性、規律の正しさを競い合い、雲ひとつない晴天に恵まれ、選手の皆さんは、日頃から積み重ねた訓練の成果を存分に発揮しました。

大会の最後には、日本消防協会会長特別賞として、優秀選手賞が各操作員1名ずつの合計9名に授与されました。

今回は、この大会において優秀選手賞を受賞された方々をご紹介します。

### 【ポンプ車の部】



指揮者 岩手県北上市消防団 第13分団第1部 部長 小原 享悦

優秀選手賞をいただくことができたことは大変光栄ではありますが、それ以上に全国消防操法大会という最高の舞台上で最高の仲間とともに準優勝することができたことが何よりも喜びです。

これも団員や消防職員、地域や職場の皆様、そして家族の支えがなければ成しえなかったことであり、御支援・御協力くださいました皆様には大変感謝しています。

今後は消防団活動を通じて、より一層地域の安全・安心のために貢献していくとともに、今回かなわなかった優勝を勝ち取れるよう、後進の育成に努めていきます。



1番員 福島県富岡町消防団 第2分団 団員 佐藤 高広

この度は優秀選手に選出されたことを大変喜ばしく思っております。

富岡町は東日本大震災及び福島第一原子力発電所の事故により全町避難を余儀なくされ、平成29年に一部避難指示が解除されたものの、未だ居住が制限されている地域もあり、住民の半数以上が依然として避難している状況です。このような状況下において、町内で日々の訓練に励み、全国操法大会に出場できたことは、富岡町消防団の結束力の強さによるものだと思います。

私は入団4年目で初めて操法訓練に取り組みましたが、有事に迅速に行動するためには、日々の訓練が重要であることを痛感しました。

この経験を生かして、富岡町の地域防災の強化に貢献していきたいと思います。



2 番員 千葉県市川市消防団 第6分団 団員 三谷 昌秀

消防操法を始めて20年の節目に、地元千葉県開催の全国大会に出場させていただき、市川市消防団の準優勝、自身の優秀選手賞を頂けた事に心より感謝申し上げます。

日々の訓練ではこれまで培った経験や能力を出しきる為の訓練を続け、その積み重ねの先に必ず結果がついてくると強く意識しました。

本番では「日々の訓練と見える景色は同じ」と操作員全員で確かめ合い、いつも通りの演技ができました。このような演技ができたのも、訓練や大会をサポート支援して頂いた、安達団長をはじめとする全ての皆さまのおかげです。

今後も地域防災、消防操法の技術向上に貢献していきます。

CIVIC PRIDE ～自分たちの街への愛着と誇り～



3 番員 京都府京丹波町消防団 瑞穂支団第1分団 団員 山内 陽介

私は今回初めての操法でした。何も分からないところからのスタートで、仕事もある中やっていけるのか不安がありました。しかし、分団長がそのような要員一人一人の思いをくみ取って下さり、訓練は週2日、体を休める期間も取っていただきました。また、的確な指導員の指導や団員の献身的なサポートがあり、自分も少ない訓練の中で効率よくするように努め、その結果優秀選手に選んでいただくことができました。支えてくれた全ての方に感謝の気持ちでいっぱいです。

家庭や仕事がそれぞれある中、過度な訓練は負担になり、消防団離れの要因の一つになっているかもしれません。負担を軽減し、加入しやすく地域のために長く活動できる消防団組織が今求められていると思います。



4 番員 石川県穴水町消防団 甲分団 班長 小栗 哲也

この度、第29回全国消防操法大会(ポンプ車の部)に石川県代表として初出場することができ、準優勝、そして4番員で優秀選手賞という素晴らしい賞を頂けたのも、長い練習期間をサポートしてくれた分団員と信頼できる操法メンバーが一致団結し、ワンチームで大会に挑むことができたからです。

また、地域や職場、消防職員の応援や指導はもちろん、何よりも家族の温かいサポートが大きな支えと力になり感謝の気持ちでいっぱいです。

本当に、ありがとうございました。

これからも、消防団活動を通して、地域の方々の生命及び財産を守り、安心安全な町づくりに貢献できるよう、より一層努力していきたいと思っています。



### 【小型ポンプの部】



指揮者 秋田県三種町消防団第5分団豊岡班 班長 信太 良行

全国消防操法大会への出場を目指し、仲間と共に操法技術を磨き上げてきました。我が豊岡班は、今回5度目の出場です。経験豊富な先輩方、消防署やOBの指導と、訓練をサポートしてくれた仲間たちに支えられ、課題を克服しながら、チームとして班長・指揮者としてそして人間としても成長できたと思っています。

今大会では、チームとして2位・準優勝、そして優秀選手賞を一番員と共に受賞しました。第23回大会でも当時の指揮者と現一番員が受賞しておりますので、長年にわたり、工夫を重ねてきた訓練内容や、指導方法が認められたようで光栄です。また、このような成果を出せたのは、日頃から消防団活動を支えてくれる家族や周りの方々のおかげです。ありがとうございました。



1 番員 秋田県三種町消防団第5分団豊岡班 団員 田村 悠人

全国大会出場が決まってから、秋田県の代表という自覚と、これまで協力頂いた方々への感謝を胸に、日々の練習に励んできました。消防団に入団して14年。今のメンバーと全国大会に出場できたことは、私にとって大変名誉なことであり、誇りです。この場を借りて「ありがとう」と言わせて下さい。

今回、優秀選手賞を頂けましたが、このメンバーと周りの協力して下さった方々、みんなで掴み取ったものだとは私は思っています。本当に感謝しかありません。

今後もこの大会の貴重な経験を私の消防団活動に活かすと共に操法技術に更なる磨きを掛けて精進して行きたいと思います。





## 2 番員 三重県亀山市消防団 団員 中瀬 智

今回の全国消防操法大会は、コロナ禍の影響で2年間延期されたうえでの開催でした。延期の発表の度、モチベーションを保つことが難しかったです。今大会を開催するにあたり、ご尽力いただいたすべての関係者の皆様に感謝を申し上げます。そして、今大会出場については、三重県知事、亀山市長をはじめ、市職員、消防団、職場、家族や地域の皆様の多大な協力と応援がありましたことをこの場をお借りして、喜びと共に感謝の気持ちを伝えたいです。ありがとうございました。

苦楽を共にした最高のチームメンバーがいたからこそ、今回の受賞に繋がった事を強く感じています。また、今大会を通じて得た経験や技術を次の若い世代にもしっかり伝承していきたいと思っています。



## 3 番員 神奈川県横須賀市消防団 第37分団 団員 臼井 翔

横須賀市消防団第37分団(久比里)として長野大会以来2度目の全国大会出場を果たし、準優勝、優秀選手賞を受賞する事が出来ました。

操法訓練が厳しさを増す中、息子と娘は疲れている私を見てマッサージをしてくれたり心身のケアを、妻とは晩酌をしながらの会話が心の支えでした。

家族や仲間、各分野で長期間サポートして頂いた方々は様々な犠牲を払われた事と思います。

この繋がりは我々の道標となり、かけがえのない財産になりました。

本当に感謝の気持ちで一杯です。この経験を活かし今後の防災や災害、全ての消防団活動に全力で取り組んで行きたいです。

開催にあたり日本消防協会、会場設営、運営に携わった方々ありがとうございました。



# (公財)日本消防協会正副会長会議を開催

(公財)日本消防協会

令和4年12月12日(月)、ヤクルト本社ビル6階大会議室において、日本消防協会正副会長会議を開催しました。

秋本敏文会長のあいさつのあと、以下のとおり、それぞれ報告がなされ、協議が行われました。



## 1 令和4年度事業実施状況について

### (1) コロナウィルス問題のための変更

- ① 中止とせざるを得なかった事業  
ア 全国少年消防クラブ交流大会
- ② 規模縮小等によって実施した事業  
ア 全国消防殉職者慰霊祭  
イ 全国消防操法大会  
ウ 全国女性消防団員活性化大会

### (2) 実施した事業

- ① ほうさいこくたい2022における「阪神淡路大震災の経験を活かす消防防災対策シンポジウム」
- ② 地域防災力充実強化大会

## 2 今後の令和4年度事業等について

### (1) 今後の事業

- ① 消防団幹部特別研修
- ② 消防団幹部候補中央特別研修(男性の部)(女性の部)
- ③ 全国消防団大会(第75回定例表彰式等)
- ④ 消防育英会奨学生の誌上交流会

## (2) 役員会等

- ① 都道府県消防協会事務局長会議兼全日本消防人共済会都道府県事務長会議
- ② 日本消防協会正副会長会議、日本消防会館建設運営委員会、全日本消防人共済会理事会
- ③ 日本消防協会理事会、評議員会、全日本消防人共済会総代会

## 3 令和5年度主要事業実施計画について

- (1) 第42回全国消防殉職者慰霊祭
- (2) 全国少年消防クラブ交流大会
- (3) ぼうさいこくたい2023
- (4) 第25回全国女性消防操法大会
- (5) 第28回全国女性消防団員活性化大会
- (6) 第50回消防団幹部特別研修
- (7) 第23回消防団幹部候補中央特別研修(男性の部)(女性の部)
- (8) 全国消防団大会(第76回日本消防協会定例表彰式)
- (9) 消防団防災学習・災害活動車両交付事業
- (10) ラジオ放送「おはよう！ニッポン全国消防団」事業(全国30ネット 毎週放送)

(注) コロナウィルス問題の状況等により、やむなく変更せざるを得ない事態となった際は、できる限り早期に全国にお知らせする。

## 4 消防団員確保対策に向けての動きについて

消防団員確保対策に向けての動きとして、正副会長会議や役員会などでご相談しながら、国や各政党など関係方面に提出した資料について改めて配布し報告された。

- (1) 消防団員確保対策の推進につきまして(令和4年6月)
- (2) 消防団のPRの充実につきまして(令和4年9月)
- (3) 消防団員確保対策の推進につきまして(令和4年10月)

## 5 新・日本消防会館について

新会館建設の進捗状況については、令和6年5月末完成に向け現在工事を行っており引き続き適切な進行管理に努めていくこと、日本消防防災情報センターについては、国や関係機関の方々及び専門的な知識を有するの方々のご協力を頂いて進めていること、新・日本消防会館完成後の記念イベント(案)については、下記の予定で、具体的な内容、参加者、開催費用等について、今後、更に検討していくことなどが報告された。

- ・ 令和6年6月27日(木)…日本消防協会役員等への完成披露
- ・ 7月12日(金)…新会館完成記念祝賀式典
- ・ 9月27日(金)…地域防災力の充実強化に関する国民大会
- ・ 11月13日(水)…「新たな災害環境への対応」国際会議





# 入間市における消防団を中核とした企業の取り組みについて

埼玉県入間市消防団 団長 西澤 宏志



## 1 はじめに

平成23年3月11日に発生した東日本大震災をはじめ、近年、我が国では地震、台風、ゲリラ豪雨などの災害による被害が頻発しています。また、首都直下型地震や南海トラフ地震などの大規模災害の発生、或いは富士山の噴火なども危惧されており、常に予断を許さない状況が続いております。

これらの災害に対応するためにも国は消防団の必要性を改めて再認識し、平成25年には「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が制定されました。しかしながら、若年層の入団者数が減少していることや団員の高齢化が進んでいることなどを受け、全国的な消防団員数は年々減少し続け、今では80万人を割り込むことも懸念されています。周知の事実ではありますが、消防団員確保は全国的な最優先課題となっているのです。

## 2 入間市消防団の現状と取り組み

入間市消防団においても新入団員の確保は喫緊の課題であることに変わりはなく、平成30年度に280名だった団員数は令和4年度では263名まで減少しました(いずれも4月1日時点、条例定数は313名)。

令和4年4月1日に消防団長を拝命してからは「新入団員確保」を最重要使命と位置付け、消防団幹部はもちろんのこと、現場の最前線で活動している団員たちの率直な意見に

耳を傾けるなど、「入団したい・続けたいと思える消防団づくり」に積極的に取り組んでいます。

また、入間市消防団では消防団活動を広く市民の方へ知っていただくための部隊である広報委員会を設置しています。若年層の入団促進を図るため、市内各所に掲示するための団員募集ポスターには、あえて入団間もない団員を前面に押し出すなど、新しい取り組みにもチャレンジしています。



若手団員をポスターに起用し訴求力を高めた

### 3 先進的な防災意識をもつ企業の紹介

こうした状況の中、消防団員確保などに大変意義のある取り組みをされている企業を紹介させていただきます。

入間市の工業団地内にある「協同特殊鋼線株式会社」という企業です。この企業では、かつて自社の工場で小さな火災を発生させてしまったことを教訓とし、「自らの会社は自らで守る」という消防団精神にも通ずる理念のもと、防災・災害対策を積極的に展開しています。

その取り組みの一つとして、社員を消防団に入団させることで、その消防団員が中心となって消防訓練などを行い、会社全体での防災・危機管理意識の向上に努めています。平成16年に最初の1名が入団し、現在では計4名の社員の方に消防団員として活動していただいております。こうして4名もの貴重な社員の方を輩出していただけているのは、会社全体としての防災意識が高いことの証であると思います。

このような意識を持って防災活動を展開している企業は全国的にも珍しく、消防団活動の環境整備に尽力し地域の消防行政に対し多



団員として活動する社員の方たち

大な貢献をしていることが評価されたことを受け、令和4年9月には入間市から感謝状が贈呈されました。

### 4 おわりに

こうした考え方が日本全国の企業に広がり、消防団員である従業員を雇用し、消防団員を中核とした災害対策を考えていただければ、団員確保等はもちろん、今後大規模災害が発生した場合でも被害を最小限にできるのではないのでしょうか。

この取り組みを日本全国の消防・行政関係者の方々に共有させていただき、消防団員確保の一助となれば幸いに存じます。



入間市内にある本社工場で行われた感謝状贈呈式の様子

# 宇都宮ヤクルト販売株式会社との消防団活動の充実強化に向けた支援に関する協定について

栃木県鹿沼市消防本部 鹿沼市消防団

令和4年11月28日、鹿沼市消防本部及び鹿沼市消防団は、宇都宮ヤクルト販売株式会社（鹿沼中央センター、晃望台センター及び鹿沼南センター）と消防団活動の充実強化に向けた支援に関する協定を締結しました。

近年災害が多発化・激甚化しており、消防団員一人ひとりの役割が大きくなっている現状や、少子高齢化の進展、被用者の増加等による、消防団員の担い手の確保が困難な状況を鑑みると、今の時代に合った団員確保対策や環境整備の対策をする必要があったため、消防団のイメージをより美しくより良いものとし、社会全体で消防団を応援していこうという雰囲気づくりを推進するため、ひいては女性消防団のみならず、すべての団員の確保、地域の安全安心につなげていくことを目的に協定の締結に至ったものです。



(前列左から)

ヤクルトレディ兼消防団員 川津由佳、代表取締役社長 柴田恵造、  
鹿沼市長 佐藤 信、鹿沼市消防団長 小太刀 昭



ヤクルトとのコラボした防火啓発パネル等

## 協定内容(主な部分を抜粋)

- 1 従業員に消防団への加入について呼びかける。
- 2 従業員から消防団に入団したい旨の申し出があった場合に、できる限り配慮する。
- 3 消防団に入団している従業員に対して、消防団活動が円滑に行われるよう、勤務の免除・ボランティア休暇等の活用などの配慮をする。また、消防団活動の実績に関する証明書を勤務評価の一つとする。
- 4 ポスター・パンフレット等の設置など、防火防災及び消防団活動に関する広報活動の支援について、協力要請があった場合にはできる限り協力する。

予想される効果としては、ヤクルトレディというイメージを消防団に取り入れることによるイメージアップは絶大なものであり、ヤクルトレディに女性消防団員というものを理解してもらえるキッカケとなります。また、地域の住民(特に要配慮者)と顔の見える関係(信頼関係)を築いて



いるヤクルトレディから地域住民へ、火災予防運動中には防火啓発、出水期や台風シーズンを迎える前には早めの避難を促す防災意識啓発などを伝えることにより、災害の抑止力の向上が期待でき、災害件数の減少による消防団員の負担軽減を図ることにもつながります。

先進性においては、消防団員の確保及びイメージアップ事業を、従来通りの消防本部または消防団単体での事業運営ではなく、宇都宮ヤクルト販売株式会社との協働事業運営となるため、高いコストパフォーマンスが見込まれます。また、ヤクルトレディのイメージを取り込むこともできるため、事業運営しなくともイメージアップという相乗効果が発生します。さらには全国的にも希少事例でもあることから、先進事例として全国へ発信し、全国の消防団員確保対策事業の選択性を拡張することとなります。

活動依頼内容は、お買い上げいただいたお客様に消防団員募集PR ウェットティッシュの配布とともに、防火の呼びかけを行います。また、消防団PR等のポスターは通行人から見える位置に掲示することや、従業員が持ち歩いている透明の保冷バッグに防火啓発パネルを入れて、お客様に見えるようにしています。

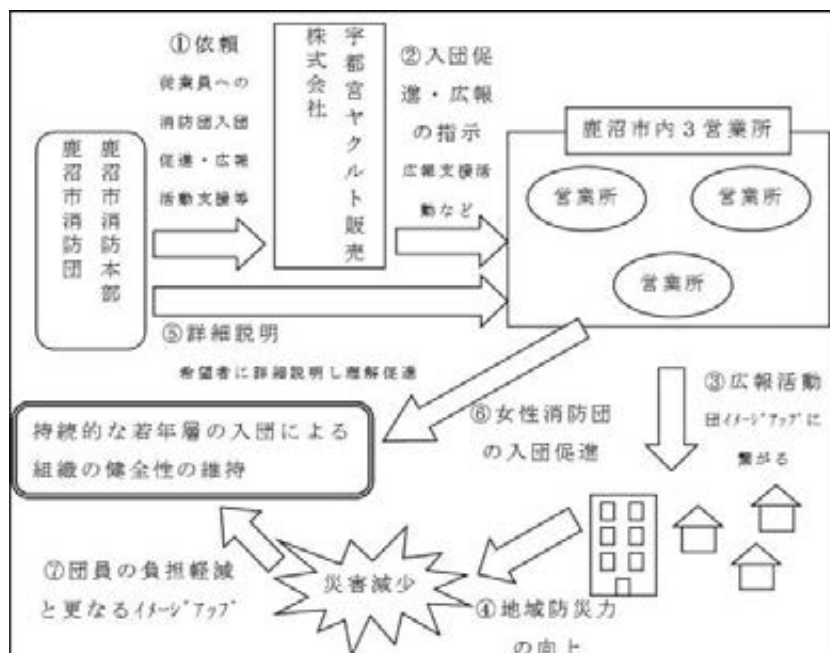


団PRウェットティッシュと防火啓発パネル(保冷バッグから見えるように)



お客様に防火の呼びかけ

#### 実施・連携体制(イメージ図)



# 地域の環境を踏まえ 分団組織再編へ！ 分団を2分団増設

北海道 羊蹄山ろく消防組合倶知安消防団

## 1 経緯

倶知安消防団は、1本部3分団で構成されていました。

当町は、「世界のニセコ」と称賛されるほど、良質なパウダースノーを求め、世界中からのインバウンドが顕著でありました。コロナ禍においては、観光客が激減したものの、スキー場エリアの開発は頓挫することはありませんでした。

目覚しい開発が進んでおり、各種メディアにも取上げられるような宿泊施設も建設されてきました。これに伴い、消防対応事案も増加傾向を呈していました。

## 2 協議・発展

このような環境状況を踏まえ、全5回に亘る幹部団員との会議を開催しました。

その結果、当該地域を警戒している、倶知安消防団第1分団に属していたニセコひらふ部を独立させ分団化することで、地域防災の要として意識の向上及び災害発生時の初期対応の迅速化が見込まれる、との気運が俄然高まってきました。

また、異常気象に伴う災害は、活動が長時間に及ぶことが多く、後方支援が重要となります。団本部女性部は、炊き出し訓練を積極的に実施し、訓練に参加した職団員各位から大変好評を得ていました。更には、各種イベントでの防火PR、救命指導など、ソフト面を充分生かし充実した活動により矜持を保ち、士気高揚につなげていました。

活動の幅が多岐にわたる団本部女性部を増員し分団化することで、更なる消防団活動の充実強化を目指す醸成が整ってきたのです。

## 3 展望

こうして、令和4年4月1日付けで倶知安消防団に新しく「ニセコひらふ分団」、「女性分団」の2分団が誕生し、1本部5分団の新体制となりました。

団員定員数を増加するのではなく、補充団員を新分団へ増員するという形式です。

団員数減少が危惧されている昨今、当消防団は10年以上実定員を確保できているという、大変ありがたい状況です。ニセコひらふ分団長は、今後の分団員の確保については古巣の分団からの人員異動だけではなく、郷土防災という同じ志を持った友人、知人等の新規入団による分団運営を目指しています。

また、女性分団長も現在まで3名の増員を図り、あと2名の増員を目標とし、消防団活動の広報に余念はありません。

新年度からの分団訓練は、今までにも増して邁進しています。今後も不測の事態に備え、地域防災の強化を目指していきます。



## 機関員講習会を実施

宮城県 岩沼市消防団

岩沼市消防団では、消防団機関員のポンプ運用と資機材取扱等にかかる技術向上を目的に、消防ポンプの運用を定期的に確認する場として、機関員講習会や林野火災を想定した中継ポンプ送水訓練を毎年交互に実施しています。

令和3年度は、機関員講習会として、使用する消防ポンプの仕組みを確認するため、トーハツ 県南サービス(株)に講師を依頼し、ポンプの構造や運転後の保守点検、低速高負荷運転による故障原因等について確認しました。また、岩沼消防署の協力を得ながら、ポンプ揚水訓練とポンプ車両積載資機材の取扱訓練を実施しました。

コロナ禍で消防関連行事等も次々と中止になる中で実施できた訓練は、短時間でしたが集中的に取り組み、消防ポンプや車両積載資機材の習熟の機会を持てました。受講者からは、「今回実施した内容を持ち帰り、参加できなかった団員と情報共有し、有意義な訓練になった」との声がありました。

令和4年度は、林野火災を想定しポンプ8基の中継隊形をとり、約1,400m先まで送水する中継ポンプ送水訓練を実施しました。

今後も継続したポンプ運用訓練に努め、地域防災力の充実強化を図っていきます。





## 地域の実態に即した災害現場で役立つ訓練

秋田県 秋田市消防団

秋田市消防団では、総務省消防庁から水害対応資機材（浸水被害に対応した排水ポンプ、救命ボート、ライフジャケット）が無償貸与されたことから、管轄内に氾濫想定区域を有する分団に対して、資機材の取扱い習得および管轄消防署との連携強化を目的とした訓練を実施しました。

当市消防団は1団本部32分団で構成されており、毎年の火災予防運動などの機会を捉えた、一斉放水訓練、救助資機材取扱い訓練や水防工法の訓練等に取り組んできました。

管轄消防署と管轄分団との連携訓練は、災害現場における消防活動の連携強化にもつながることはもちろん、今回、新たに行った水害対応資機材の取扱い訓練についても、ひいては市民の安全・安心につながるものと確信しています。

今後も各種訓練を継続的に行い、有事の際には迅速に対応できる体制の構築に努めてまいります。



## 福島県南相馬市消防団PR活動 (あきいち2022)

福島県 南相馬市消防団

令和4年11月3日(木・祝)、旭公園(福島県南相馬市原町区栄町3丁目)において、消防団員の確保、消防団の活動を市民に知っていただくことを目的とした、福島県南相馬市消防団PR活動(あきいち2022)を実施しました。

前年度より、消防庁が実施する消防団員入団促進キャンペーンの一環として、地方公共団体主催の広報イベント等への吉本興業(株)所属芸人の派遣ができることになり、市内のイベントでの派遣を要請し、消防団PRの検討を進めてまいりました。

イベントでは、消防団募集チラシ等を配布しながら、水消火器の体験、消防車両の展示、写真撮影を通じてPRを実施しました。また、吉本から派遣された芸人とともに、イベントステージでもPRを行い、来場者に消防団の取り組みについて発信することができました。子供の消防車両への関心が高く、多くの親子連れに消防団のPRが行えたと思います。

消防団員の確保は一朝一夕で行えるものではないことから、このようなイベントでのPRも含め、まずは消防団という組織についての理解、若い人たちへの興味・関心を持っていただくことから取り組んでいき、団員の確保に繋がりたいと考えます。



## 女性消防団の応急手当普及員講習指導

愛媛県 東温市消防団

令和4年9月24日(土)、東温市消防本部3階大会議室において、現職の救急救命士が応急手当普及講習の講師とし、女性消防団を対象に応急手当普及員講習を開催しました。女性消防団員が応急手当普及員講習指導員になることによって、女性ならではの優しく、親しみやすい指導により地域密着型の普及を目指すことを目的としています。

参加した女性消防団員からは、応急手当普及員講習を受講し救急救命士による座学で知識の向上を図ることができ、グループでの実践的な指導方法を繰り返し行うなど、大変有意義な講習であったと好評を得ています。

コロナ禍において新規での救命講習の実施が懸念される中、催し物や集まる機会も減ったことにより、応急手当指導員として市民の皆様へ指導する機会が減少傾向にあります。その中で、自宅のパソコン、タブレットPC、スマートフォンを使用して簡単にできる応急手当Web講習(eラーニング)のご案内を東温市ホームページに掲載し、普及啓発に努めています。





## 湯布院地域防災訓練を実施

大分県 由布市消防団(湯布院方面隊)

由布市地域防災計画及び国民保護法等に基づき、台風による水害を想定した訓練を実施しました。

被災直後に由布市災害対策本部を設置したのち、湯布院支部災害対策本部として迅速かつ的確な災害対策活動を行う際の防災関係機関との相互協力体制の確立と、実践による訓練を行うことにより、災害を警戒防御し、被害の軽減に努めるとともに、地域で活動する消防団員の更なる資質向上ならびに地域住民の防災意識の高揚を図ることを主たる目的としたもので、由布市消防本部湯布院出張所、大分南警察署湯布院幹部交番、佐土原自治区及び由布市消防団湯布院方面隊が参加しました。

訓練概要は、台風襲来によって災害が発生した想定でシミュレーションを作成し、由布市役所湯布院庁舎に「湯布院支部災害対策本部」を設置、消防団をはじめとする各機関と連携し、避難誘導訓練、警戒広報通信訓練、水防訓練及び中継消火訓練等を行いました。

現地対策本部設置後の訓練順序は下記項目のとおり。

- ① 佐土原自治区及び消防団による地域住民の避難誘導
- ② 消防団による広報警戒活動
- ③ 消防団員による被害状況調査・無線による通信訓練
- ④ 消防団による土のう積み水防訓練
- ⑤ 消防本部及び消防団の連携による消火活動・中継訓練

本訓練を通し実災害での各機関との連携、地域住民への避難誘導等円滑な動きの確認をできたとともに、地域住民への防災意識の高揚を図る効果があったのではないかと考えています。



# 「消火栓」や「防火水そう」付近は駐車禁止！

総務省消防庁 消防・救急課

皆さんは、「消火栓」や「防火水そう」をご存じですか？これらは、消火活動には欠かすことのできない施設で、火災発生時、消火に必ず必要となる水を消防隊に供給するものです。

「消火栓」や「防火水そう」は道路脇や歩道上などに設置されており、その位置を示すため、標識を掲げているもの、路上やフタにマーキングをしているものなどがあります。また、「消防水利」として指定されているプール、池、井戸、河川なども、消火活動に使用しています。

これらの消防水利等の周辺は、道路交通法で駐車が禁止されています。また、消防隊は定期的に調査や点検・整備を行い、いつでも火災が発生しても、直ちに消火活動ができる体制をとっていますが、火災発生時に「消火栓」や「防火水そう」付近に駐車された車両が障害となり、消火活動を妨げるおそれがあります。

違法な駐車は、一刻を争う消火活動の障害になります。消防水利の周囲に駐車されないよう、皆様の御理解と御協力をお願いします。



消火栓は、消防自動車吸水しやすいように、道路脇や歩道上に設置されています。



消火栓の上に車が止まっているため、消防自動車が消火栓を使用することができません。

## 道路交通法で駐車を禁止している場所(消防関係)

### 1 消防水利の周辺

- (1) 消火栓から5メートル以内の部分
- (2) 消防用防火水そうの吸水口若しくは吸管投入孔から5メートル以内の部分
- (3) 消防用防火水そうの側端又はこれらの道路に接する出入口から5メートル以内の部分
- (4) 指定消防水利(プール、池、井戸、河川等)の標識が設置されている位置から5メートル以内の部分

### 2 その他

- (1) 消防用機械器具の置場(消防自動車等の車庫や消火用ホース格納箱等)の側端又はこれらの道路に接する出入口から5メートル以内の部分
- (2) 火災報知機から1メートル以内の部分
- (3) 駐車車両の右側の道路上に3.5メートル以上の余地がない場合

# 雪害に対する備え

総務省消防庁 防災課

今年もこれから本格的な雪のシーズンを迎えます。大雪、暴風雪等が予想される場合や除雪作業を行う場合には、以下の注意点を参考に、安全確保を心がけ、事故防止に努めましょう。

## 1. 大雪、暴風雪等が予想される場合の注意点

以下のポイントに注意して、安全確保を心がけましょう。

### 【心がけるポイント】

#### ○在宅時の安全な過ごし方に関すること

- ・ 不要不急の外出を避ける
- ・ 懐中電灯、携帯ラジオ、食料、飲料水等を準備する
- ・ FF式(強制給排気)暖房機(※)の給排気口付近の除雪状況を確認する

※燃焼用空気を室外から給排気筒を通して取り入れ、燃焼により発生した空気を、給排気筒を通して室外に出す方式

#### ○車両運転等に関すること

- ・ できる限り車両の運転は避ける
- ・ やむを得ず運転する場合は以下を実施する
  - ア 気象情報、道路情報等の確認
  - イ 車両の点検整備
  - ウ 防寒着、長靴、手袋、カイロ、スコップ、牽引ロープ、毛布、飲料水、非常食等の準備
  - エ スタッドレスタイヤやタイヤチェーンの装着
- ・ 車両立ち往生時は以下に注意する
  - ア 一酸化炭素中毒を防止するため、マフラーの定期的な除雪や車内の換気をする
  - イ やむを得ず車を離れる場合には、ドアをロックせずキーを車内の分かりやすい場所に残す



関越自動車道における立ち往生の状況(提供：国土交通省)

## 2. 除雪作業を行う場合の注意点

令和3年11月からの雪による人的被害は、死者が99名で、そのうち除雪作業中の死者が76名に上りました。

以下の項目に注意して、除雪作業中の事故防止に努めましょう。

### 【命を守る除雪中の事故防止10箇条】

- ☐ 作業は家族、となり近所にも声をかけて2人以上で！
- ☐ 建物のまわりに雪を残して雪下ろし！
- ☐ 晴れの日ほど要注意、屋根の雪がゆるんで！
- ☐ はしごの固定を忘れずに！
- ☐ エンジンを切ってから！除雪機の雪詰まりの取り除き
- ☐ 低い屋根でも油断は禁物！
- ☐ 作業開始直後と疲れたころは特に慎重に！
- ☐ 面倒でも命綱とヘルメットを！
- ☐ 命綱、除雪機など用具はこまめに手入れ・点検を！
- ☐ 作業のときには携帯電話を持って行く！

この他にも、国土交通省において除排雪に関する各地の取組事例集が紹介されていますので、参考にしてください。

([http://www.mlit.go.jp/kokudoseisaku/chisei/kokudoseisaku\\_chisei\\_tk\\_000064.html](http://www.mlit.go.jp/kokudoseisaku/chisei/kokudoseisaku_chisei_tk_000064.html))



命綱、ヘルメットを装着して作業する様子(提供：新潟県)



# 住宅の耐震化と家具の転倒防止について

総務省消防庁 防災課

地震はいつどこで起こるかわかりません。6,400名を超える死者を出した阪神・淡路大震災では、多くのの方が、住宅の倒壊等による圧迫もしくは倒壊した住宅や転倒した家具から逃れることができないまま火災に遭遇し亡くなられています。

このような被害を軽減するためには、住宅の耐震化や家具の転倒防止などが極めて有効です。

## 住宅の耐震化について

### ○ 自宅の建築年度の確認

自宅の建築年度を確認しましょう。建築基準法による現行の耐震基準は昭和56年6月1日から導入されており、昭和56年5月以前に建築確認を受けて建築された建物の中には、現行の耐震基準で建てられた住宅に比べ、強い揺れで倒壊する可能性が高いものがあります。

### ○ 耐震診断の相談

自宅が昭和56年5月以前に建築確認を受けて建築されている場合、まずは、お住まいの自治体の窓口相談することをおすすめします。耐震診断に関する補助制度を設けている自治体や無料で診断士を派遣してくれる自治体などもあり、これらの制度を活用すると良いでしょう。また、行政以外では、地域の建築士会で相談を受けている場合もあります。

### ○ 耐震補強の実施



筋かいの追加



金具による補強

耐震診断の結果、耐震性がないと判断された場合は、補強を行う必要があります。壁の筋かい等を追加する、梁と柱の間を金具で補強する、基礎を鋼材で補強するなど、様々な方法がありますので、自宅に効果的な方法を建築士や工務店とよく相談することが必要です。工事費用の一部について自治体が補助制度を設けている場合がありますので、施工前に自治体の窓口で制度の確認を行うことをおすすめします。

## 家具の転倒防止について

### ○ 家具配置等の工夫

まずは、転倒被害を受けにくい家具の配置について

工夫してみましょう。例えば、寝室であれば、就寝する位置について、家具の高さ分以上離れた場所にする、家具の正面を避けるなど、安全面に配慮した家具の配置を心掛けましょう。

また、家具が倒れても出入口が塞がれないように、家具は出入口付近に置かない、あるいは倒れても通り抜けられる空間を残せる位置に置くなど、部屋の状況にあわせて工夫してみることが大切です。

### ○ 具体的な転倒防止対策

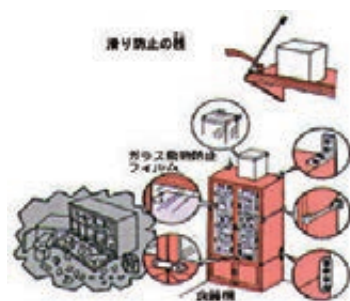
配置の工夫

だけでは安全を確保できない場合があります。

タンスや本棚などをL型金具や支え棒などで固定する、食器棚に扉が開かないための扉開放防止器具を取り付け

る、物が落下しないよう滑り防止の棧を取り付けるなど、具体的な転倒防止対策を講じることが有効です。

また、冷蔵庫やテレビ、電子レンジといった家電製品やピアノなどについては、電気を使用することや重量の大きさからより一層の注意が必要です。専門知識のあるメーカーや販売店に問い合わせ、設置場所に適した固定方法を確認することをおすすめします。



家具の転倒防止の一例

住宅の耐震化や家具の転倒防止などは、地震被害を軽減するために有効な取り組みです。費用はかかりますが、自治体の制度を活用することなどにより、通常より安価に対応できる場合もあります。地震が起きたとき、住宅の倒壊や転倒した家具から自分や家族の身を守るためには、日頃から一人ひとりが地震に対して備えることが大切です。

早期に耐震診断を受けるとともに、家具の固定などに積極的に取り組みましょう。

家具の転倒防止については、下記の消防庁HPで詳しく紹介しております。

「地震による家具の転倒を防ぐには あなたが守る一家族の安全」

<https://www.fdma.go.jp/publication/database/kagu/post1.html>



## 瀬戸市消防団 イメージキャラクター誕生

愛知県 瀬戸市消防団

瀬戸市消防団は、愛知県の尾張北東部に位置する瀬戸市を管轄とし、現在1本部14分団(女性分団含む)総勢246名の団員により構成されており、日夜活動しています。

そんな瀬戸市消防団に日頃の活動を支援する消防団活動車が令和元年度に配備されました。この車両には男の子と女の子の消防団員のキャラクターが描かれており、制作には、瀬戸市消防団の元分団長を父に持ち、瀬戸市消防団応援サポーターで、「月刊誌りぼん」に連載を持つ人気漫画家としても御活躍中の「中島みるく」先生に御協力いただき誕生しました。

日頃から団員の移動、資器材の搬送などで市内を走行し、市民の目に触れることが多い2人のキャラクターにさらに親しみをってもらうため、令和4年10月に産みの親である中島みるく先生に「おりべ」、「きせと」という瀬戸物焼きに由来のある名前を付けていただき、瀬戸市消防団イメージキャラクターとして正式に採用されました。

今後の瀬戸市消防団の活動や魅力を消防団公式ツイッターやInstagramなどのSNSを始めとする様々な媒体で広報活動を行っていただき、消防団の加入促進に繋げていきます。





Twitter





Instagram

**おりべくん**

瀬戸市の特産品の瀬戸焼を代表するやきものの一つである**織部焼**のようにしなやかで力強く、しっかりとした消防団員です。  
瀬戸焼のようにちょっとしたことで割れない、強い心をもっています。

**きせとちゃん**

瀬戸焼でよく使われる釉薬、**黄瀬戸**のように美しく物腰の柔らかな消防団員です。  
多種多様な焼き物が作られる瀬戸市のようにいろんなことにチャレンジする女性です。

## うちの団のPR



### 現役消防団員は 芸歴40年のベテラン漫才師！

東京都 荒川消防団

皆様、「ピックボーイズ」という漫才コンビをご存じですか？ピックボーイズさんは漫才協会に所属し、浅草の歴史ある演芸場「東洋館（フランス座）」を拠点に活動されている芸歴40年のベテラン漫才コンビです。

ピックボーイズのボケ担当なべかずおさんは、なんと荒川消防団の第3分団に所属する現役の消防団員で、今年行われた団操法大会では3番員として出場するなど精力的に活動されています。

11月に荒川消防署において行われた防火のつどいでは、消防団員ならではの防火防災をネタにした鋭いボケとつつこみで見事に会場を沸かせてくれ、「消防イベントなどで面白おかしく防火防災について少しでも考えてくれたら、こんなに嬉しいことはありません！」と今後の意欲を語ってくれました。

防火防災についてのイベントを企画されている担当者の皆様、ぜひピックボーイズさんの出演を検討してみてはいかがでしょうか？



〔写真右〕なべかずおさん





## 「江東区民まつり」深川消防少年団がパレードに参加！

東京都 深川消防少年団

10月16日(日)都立木場公園において江東区最大級の催し物である「第40回江東区民まつり」が3年ぶりに開催され、おまつりのメインイベントであるパレードで深川消防少年団鼓笛隊が演奏しました。

新型コロナウイルス感染防止対策に配慮しながら、限られた時間の中で鼓笛練習に取り組み、本番のパレードでは練習の成果を発揮し、大勢の観客を前に堂々と行進しながら素晴らしい演奏を披露しました。

来場者からは大きな拍手が送られ、深川消防少年団鼓笛隊の演奏を見学していた子供たちからは「来年は自分も参加したい!」という声も聞かれ、地域との関わりを深め、未来の防災の担い手の礎を築くパレードとなりました。



うちの

# 名物団員



福島県

小野町消防団 訓練分団 副分団長

大和田 一博

大和田訓練副分団長は、地元の工務店で主に水道工事業に従事しています。仕事から消火栓の構造に詳しく、可搬ポンプの扱いにも長けており、消防活動に必要な知識や技術を兼ね備えています。

消防団内では、自身がポンプ操法大会に出場した経験を活かし、現在は指導員として、後輩団員の指導に努めています。

団員とのコミュニケーションを大切にし、誰からも慕われる人柄で、常に地域コミュニティの中心として、日々活躍しています。



大阪府

熊取町消防団 副団長

北川 孝文

北川副団長は、平成7年に熊取町消防団に入団して以来、消防団活動はもとより地域の自主防災組織の訓練にも参加して訓練指導を行うなど地域防災力の向上に努めており、現在は副団長として団長からの信頼も厚く、消防団員の司令塔として活躍しています。

生まれも育ちも熊取町で、仕事も一生懸命行いつつ、日頃から趣味のゴルフやお酒を通して地域の方々との交流も深めています。

一見すると強面ですが、「熊取町に恩返しできるのはこれしかない」との熱い思いを胸に抱く誠実で人情深い幹部団員です。

今後も消防、防災の分野に限らず幅広く活躍されることを期待しています。





佐賀県嬉野市消防団からは、永尾真一郎班長を紹介します。

永尾班長は、家業の造園業に従事しながら消防団活動にも精力的に参加し、地域の安全安心のため尽力されています。

そんな永尾班長は、2024年に佐賀県で開催される国民スポーツ大会における正式競技の一つであるスポーツクライミングに打ち込んでおり、大会に向けては地元開催ということもあり、自主的に選手の世話を买って出るなど競技の活性化のため活動を行っています。

これからも消防団活動はもとより地域や競技のため幅広く活躍されることを期待しています。



児湯郡木城町大字石河内で閉校となった旧石河内小学校を利用した宿泊施設の施設長をしています。

この地区出身で、51歳の時Uターンして現職につきました。それまで消防団とは全くかわりを持ったことがありませんでしたが、4年たった時に地区の消防団員から消防団員のなり手がいなくて困っているのに入団してほしいと勧誘されました。年齢的に務まるのかと不安でしたが、今まで地元のために何もできていなかったことと消防団を通して交友関係が広がると思い入団することにしました。

自分よりも20歳ぐらい若い団員に指導してもらいながら5年たちました。その間には、家屋火災、行方不明者捜索、台風被害対応など出動機会が幾度とあり、少しは地域に貢献できたのではないかと考えています。





椎葉村消防団 第10部  
部長

甲斐 雅規



宮崎県椎葉村は九州山地の中央に位置し、人口約2,400人の自然豊かな村です。面積は537.29km<sup>2</sup>で村としては全国第5位の広さがあり、1,700m級の山々に囲まれています。

私が所属する椎葉村消防団は団員数275名で10ヶ部を編制しており、広範で集落が点在している本村の特徴を踏まえながら地域住民の生命、財産を守るべく日々地域防災活動を行っております。消防団の防災活動の主流は広大な面積と急峻な地形から梅雨期や台風等による風水害対策であり、道路の寸断や長時間の停電などによるライフラインの確保が一番の課題となります。小さい集落での家屋火災や山林火災が発生した場合はポンプ自動車等の大型車両が進入できない場所が多くあり、水利の確保が困難で初期消火に時間を要する状況も多くあります。そのため、本村では消防団と地域住民とのつながりを重要視しており、連

携した総合的な防災訓練や、火災には欠かすことの出来ない小型ポンプの取扱い訓練を年間通じて実施し防災意識を高めています。

そのような中、令和4年度に私が部長を務める消防団第10部が本村では半世紀ぶりに小型ポンプの部で悲願の全国大会に出場することが出来ました。操法要員は3月から全国大会出場を目標に訓練を開始しましたが、新型コロナウイルスの感染拡大による第6波、第7波の影響で例年のような十分な活動が出来ない状況がありながらも団員一人ひとりがしっかりと感染対策を実施しながら訓練を頑張ってきました。9月には台風14号が襲来して本村全域に平成16、17年の台風災害以来となる甚大な被害をもたらしました。そのような中でも10月からは復旧活動の忙しい合間を縫って訓練を再開した団員達に誇りを持っています。

全国消防操法大会では本来の実力を発揮させることが叶わず操法要員には悔しい思いをさせていただきましたが、次に繋がる良い経験になりました。私自身も他県の代表隊の操法を目の当たりにして、それぞれの消防に対する熱い思いが伝わってきましたので、改めて身の引き締まる思いをし、良い経験となりました。

本村の消防団員数は全国の傾向と同じく年々減少しており、人口減少に伴う団員減少の歯止めは至難の業ですが、これからも地域に根ざした地域住民と一体となった活動を行っていくことが消防団活動の最善の策だと信じて精進していきます。



安否確認調査中



道路啓開活動中



土石流発生集落遠景



消防出初式



全国消防操法大会

## 2022年度 全国統一防火標語

# 「お出かけは マスク戸締り 火の用心」

## 令和5年2月の日本消防協会関係行事

- 2月1日(水)・2日(木)・3日(金) 第22回消防団幹部候補中央特別研修(男性の部)  
2月8日(水) 消防育英会定時理事会  
2月13日(月) 第2回福祉共済事業等運営委員会  
2月15日(水)・16日(木)・17日(金) 第22回消防団幹部候補中央特別研修(女性の部)  
2月22日(水) 都道府県消防協会事務局長会議

※ 現時点での予定であり、状況により今後変更の場合があります。

## 編集後記

令和4年12月26日に、令和4年度第38回防火ポスターコンクール及び令和4年度第22回「防火防災に関する」作文コンクールの表彰式が行われ、日本消防協会秋本敏文会長から最優秀賞受賞者に賞状と記念品、最優秀賞受賞者の在籍学校に記念品を贈呈しました。これらのコンクールは毎年実施し、毎回沢山の応募があるとのこと。ご応募いただき感謝申し上げますとともに、今後ともよろしくお願い致します。(T.K)

謹賀新年。表紙のカラーも新たに、今年の「消防の動き」もスタートです。さて、新会館の建設工事もこの年末年始はきちんと休みつつ着実に工事が進められ、4月にはいよいよ地上階が建ち上がり始めて、9月頃には最上階(14階)まで姿を現すということであり、とても楽しみです。今月号では、昨年末の正副会長会議開催の様を取り上げていますが、その中で、この新会館完成後の「記念イベント(案)」(今後更に検討)も報告されていますのでご覧いただければ幸いです。また、例年どおり県協会の協力も得ながら「消防団活動事例集」(「地域防災力の充実強化と消防団」として3月刊行予定)を取りまとめ中ですが、その中から今回は6事例を先行する形で紹介しております。今年も是非御愛読宜しくお願いします。(Y.T)

## 購読募集

購読を希望される方は、(公財)日本消防協会へお問い合わせください。

※ 年間購読料(送料込) 2,496円  
(問合せ先) 総務部企画担当 03-6263-9401

## 寄稿のお願い

皆さまの消防団活動への取組み、ご意見などをもとに、より充実した有意義なものにしていきたいと考えておりますので、多数のご寄稿をお待ちしています。

Eメールでも受け付けています。 [kikou@nissho.or.jp](mailto:kikou@nissho.or.jp)

月刊「日本消防」第七十六巻第一号  
令和五年一月五日印刷  
令和五年一月十日発行

編集人 田中 豊

発行所 (公財)日本消防協会

東京都港区東新橋一丁目十九

電話 〇三(6263)九四〇一(代)

印刷所

東京都中央区銀座七丁目一六二二

株式会社アイネット

電話 〇三(3549)五六〇〇

# 消防人の 火災共済

地震等災害見舞金  
もあります

消防団員  
消防職員  
ならなくても  
加入できます

掛金25口、2,500円 (56%以上の焼損)  
火災共済金375万円のお支払い

1500倍補償

B型火災共済

消防団  
消防本部

毎に皆で加入

掛金は、5口500円から5口毎、25口2,500円まで選択できます。

落雷の損害  
にも対応!!

建物と動産の配分は常に4:1とする契約となります。

お申し込みは、所属の消防団担当から都道府県支部（消防協会）へ。



お支払  
対象

●火災共済金

火災・落雷・爆発・破裂

●風水雪害等共済金

風災・水災・雪災・車両飛び込み・航空機墜落等

●地震等災害見舞金

地震・津波・噴火

生活協同組合 全日本消防人共済会 TEL 03-6263-9822

詳しくはホームページをご覧ください <http://www.shouboujin.or.jp/>

消防団員・消防職員だからこそ加入できる

## 消防個人年金

積立金には予定利率（年1.25%）、配当率が適用されます。

老後生活に向けた  
計画的な財産形成  
が可能です。

月払の場合、  
毎月一万円（ゆうちょ  
銀行は五千円）から  
ご加入いただけます。

給付金の受取りは、  
年金（6種類）又は  
一時金からご選択  
いただけます。

途中で脱退しても、  
積立金（脱退一時金）  
が受け取れます。

税制適格コースは  
個人年金保険料控除  
自由選択コースは  
一般の生命保険料控除  
の対象となります。

消防団員、消防職員  
の退団・退職後も  
継続できます。

（パンフレット・加入申込書のお取り寄せ、お問い合わせ先）

公益財団法人 日本消防協会 年金共済部

0120-658-494 平日 9:00~17:00

お問い合わせ先

（公財）日本消防協会

〒105-0021 東京都港区東新橋1-1-19  
ヤクルト本社ビル内  
TEL.(03)6263-9401（代表）  
<https://www.nissho.or.jp>

各市町村の消防事務担当者または消防本部消防団事務担当者、都道府県消防協会